

GUIDE
BOOK
2026

GRADUATE SCHOOLS OF JAPAN COLLEGE OF SOCIAL WORK

日本社会事業大学院

日本の社会福祉を
先導する
2つの研究科

福祉マネジメント研究科

専門職大学院

実践力とマネジメント力の向上を目指す

社会福祉学研究科

研究大学院

社会福祉の課題を科学的に解明する

フロンティアで究めよう。

社会福祉とソーシャルワークの深奥へ

1946年に政府からの委託を受け、

日本初の社会福祉・ソーシャルワークの専門教育機関として創立された日本社会事業大学。

日本の社会福祉に変革をもたらすリーダーを育成するべく、

「福祉マネジメント研究科(専門職大学院)」と

「社会福祉学研究科(研究大学院)」を設置しています。

ソーシャルワークの現場で高度な専門性を発揮して活躍する人。

社会福祉学分野で実践的かつ学術的な新しい知見を見いだす人。

誰かの幸せを願い、探究するその人の想いに本大学院は応えます。

福祉研究の原点にして「フロンティア(最前線)」であるこの場所から、

未来を切り開くその挑戦を加速させましょう。

日本社会事業大学大学院

INDEX

教員インタビュー	04	社会福祉学研究科(研究大学院) 18	学費 / 奨学金	32
2つの研究科	06	博士前期課程(修士課程)	入試概要	34
福祉マネジメント研究科(専門職大学院) 08		博士後期課程(博士課程)	説明会 / アクセス	35
カリキュラムの方針と構造	10	教員×院生対談		
履修形態とキャリア形成支援	12	教員紹介		
教員×院生対談	14	修了生の声		
教員紹介	15	学長メッセージ / 沿革		
修了生の声	16	組織図		

教員 インタビュー

現場での苦悩や葛藤を、
多彩な領域の人たちとともに考える。

私は「災害ソーシャルワーク」を研究テーマに掲げ、災害時に必要な福祉の支援について、現場に根ざした実践的な手法と、そのあり方を探求しています。災害発生時には、大量の支援が一律に提供されることも多く、その結果として被災者のニーズと合わず、かえって被災された方々の回復力を損なってしまうケースも目にしてきました。同じ「被災者」であっても、それぞれ異なる生活環境・背景・被災の影響があり、必要な支援は多様で複雑です。そのため、一人ひとりの状況に応じた支援の在り方を考えることが重要であり、故に災害時にはさまざまな専門支援の連携が必要になります。その支援を適切にマネジメントする機能の強化も、研究の中心に据えています。

私は25年間、宮城県社会福祉協議会でソーシャルワーカーとして活動してきました。研究の道に進むきっかけとなったのは、2011年の東日本大震災です。当時、災害ボランティア活動支援や被災者支援事業に従事する中で、「支援が必要な人」と「支援をする人」とをつなぐ仕組みが機能していない現状を目の当たりにしました。需要と供給のバランスが取れず、支援の空白や重複が生まれてしまうなか、その課題に対して、現場だけでなく研究・調査の視点から新しい支援のかたちを構築する必要性を強く感じ、研究者としての道を歩み始めました。将来的には、有事の時だけでなく、平時にも役立つ地域福祉の仕組みを作ることを目指しています。

ゼミでは、現場で支援にあたってきた方や、日々葛藤しながらソーシャルワークに向き合う方々と共に学びを深めています。本音で語り合える関係性を築くことを大切に、院生の実践や経験を起点にした課題意識を掘り下げていく指導を行っています。現場での気づきを研究という形に昇華させ、それがまた実践へと還元される——そんな循環を生み出せるよう、共に学んでいくことを大切にしたいと考えています。



福祉マネジメント研究科(専門職大学院)

北川 進 講師

[研究テーマ]
災害ソーシャルワーク、地域福祉

日本の社会福祉学の原点である本学は、「福祉のリーダーを養成する」という使命のもと、日々の教育や研究に取り組んでいます。福祉マネジメント研究科の北川先生、社会福祉学研究科のヴィラーグ先生のインタビューから、最新の教育内容や研究成果をご紹介します。

多様に対応するソーシャルワークで
共生社会の実現を目指す。

私の専門は、文化的に多様なニーズに対応したソーシャルワークです。特に興味を持っているのは、社会の中で不利益を被りやすい立場にある人々への支援です。アイヌや琉球民族といった先住民、在日コリアンのような歴史的な少数民族、移民や難民といった文化的なマイノリティに属する人々を対象に、彼らの生活課題や、その背景にある差別や社会構造的な抑圧について研究しています。

行政による支援はどこまで届いているのか、どのような制度的な課題が残されているのか。そうした問いに、理論と現場の両面から向き合い、ソーシャルワークの視点での解決策を探っています。最近では、LGBTQ+などの性的マイノリティに関する研究や、先住民の知恵を活かして環境問題にアプローチする「グリーンソーシャルワーク」にも関心があります。生きづらさを抱える人が少しでも減り、地球環境にも配慮した持続可能な共生社会の実現に貢献したいと考えています。

こうしたテーマに向き合う背景には、ルーツが深く関わっています。出身地である中央ヨーロッパは、複雑な民族問題や歴史的な圧政を経験してきた地域です。加えて、日本では私自身が文化的なマイノリティの当事者でもあります。大学生の頃、研究を通じて移民が抱える社会的なニーズに気づき、そこに福祉の力が必要になると実感しました。将来的には、沖縄特有の地域・民族文化に焦点をあてた研究にも取り組む予定です。

私のゼミでは、学生の研究テーマも多様です。在日コリアンの高齢者の介護問題、開発途上国での環境保全と雇用創出を両立させるプロジェクト、CO₂削減を目的とした植林活動など、地球規模の社会課題を視野に入れた取り組みもあります。学生の背景もさまざまで、大学から進学してきた人だけでなく、異業種で社会経験を積んだ方も在籍しています。このような多様な交流も、研究に深みを与えてくれます。

常識や当たり前を疑い、科学的な根拠に基づく論理的な思考で社会に向き合う——そんな姿勢をもち、共に福祉の新たな可能性を探求していきましょう。



社会福祉学研究科(研究大学院)

ヴィラーグ・ヴィクトル 准教授

[研究テーマ]
ソーシャルワーク理論、多様性、国際社会福祉

2つの研究科

福祉マネジメント研究科

専門職大学院

実践研究を通じ現場の最前線で求められる人に

社会が大きく変化するなかで、私たちは社会福祉を普遍的なニーズとして認識するようになりました。しかしながら、それと同時に、生活困窮、虐待、孤立、社会的排除、貧困の連鎖など、複雑で深刻な問題を抱える人々は増え続け、自らの実践と経験だけでは解決できない状況が次から次へと生まれています。

「分野を越えて学びたい」「これまでの実践を振り返りたい」「支援のあり方を見つめ直したい」「人材育成の方法を学びたい」「福祉経営の知識を体系的に獲得したい」。専門性を深め、視野を広げること。チームや組織を理解し、他機関との連携を進めること。これらのニーズに応え、高度な福祉人材を育成することが、福祉マネジメント研究科(専門職大学院)のミッションです。

身につく力

福祉の現場経験を糧として学びなおし
実践力とマネジメント力の向上を目指します。

- 1 ソーシャルワーク実践力の向上
- 2 スーパービジョン
- 3 福祉人材の育成
- 4 組織と現場のマネジメント
- 5 実践現場の変革



福祉マネジメント研究科(専門職大学院) Q&A

Q. 社会福祉学研究科(研究大学院)との違いはなんですか？

A. 実践現場で働き続けたい人が学びます。

社会福祉学研究科(研究大学院)は研究者の育成に重点を置き、福祉マネジメント研究科(専門職大学院)は実践家の育成に重きを置いています。実践力とマネジメント力の向上を目指します。

Q. 働きながら学べますか？

A. 働きながら学びやすい環境を整えています。

2年間で計画的にカリキュラムを履修できる長期履修制度があります。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。また、オンライン(同時双方向型遠隔授業)・対面どちらでも受講ができるハイブリッド授業があります。詳細はP.9のPick Upをご確認ください。

Q. 専門実践教育訓練給付制度について教えてください。

A. 学費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。

標準修業年限(1年)で修了する2026年4月入学生で雇用保険の加入期間等条件を満たした方が申請できます。給付額の上限は64万円です。

こんな人にオススメ 支援のあり方を見つめ直したい 人材育成や福祉経営の基本を体系的に学びたい など

社会福祉学研究科

研究大学院

科学的研究を通じ福祉現場をより良いものに変えられる人に

福祉に求められるものは時代とともに変わります。そこで必要となるのが、現状での課題をしっかりと捉え、さまざまな視点から検証し、将来に向けて新しい提案ができる専門家です。本大学院では、より良い社会福祉実践を実現するために、研究的な視点を持つ実践者、および実践的な研究者を育成しています。

博士前期課程(修士課程)

現代のさまざまな福祉ニーズを科学的に明らかにし、その解決に有効な援助方法や支援モデル、福祉制度・政策のあり方を追求する方法を身につけます。

前期課程で身につく力

- 1 社会福祉援助方法を科学的に追求する能力
- 2 社会福祉実践プログラムを科学的に追求する能力
- 3 社会福祉制度・政策のあり方を科学的に追求する能力
- 4 社会福祉理論を科学的に追求する能力

博士後期課程(博士課程)

自立した研究能力を持ち、社会福祉実践の向上に役立つ研究を行って社会に影響を与えることのできる実践研究者および実践の中で、研究ができる人材を育成する教育研究者を養成します。

後期課程で身につく力

- 1 研究課題を科学的に追求する自立した研究能力
- 2 社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に資することのできる高度の実践研究能力
- 3 社会福祉学の豊かな学識
- 4 国際的、学際的な視野から各専門領域で活躍できる能力

社会福祉学研究科(研究大学院) Q&A

Q. 他大学院との交流はありますか？

A. はい。大学院社会福祉学専攻課程協議会に加盟しています。

本学を含め12校の福祉系大学院で構成する大学院社会福祉学専攻課程協議会に加盟しています。他大学院の科目を委託聴講したい場合は、指導教員の了解のもと2単位1,000円で10単位を限度として委託聴講できます。

Q. 働きながらでも通えますか？

A. 福祉現場や教育機関の方など、大勢の社会人学生の方が本学で学びました。

授業は講義や研究演習、論文指導のすべてを木・金・土曜日に集中して開講しています。授業形態も、対面だけでなく、多くの授業がオンライン受講できるため、今まで以上に両立しやすくなっており、遠隔地からの進学も増えていきます。

Q. 教育訓練給付制度は適用されますか？

A. 指定講座となっているので、適用されます。

社会福祉学研究科(博士前期課程)は、一般教育訓練給付制度の指定講座となっています。給付条件の対象となる方に費用の20%(上限10万円)が支給されます。

こんな人にオススメ 社会福祉に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を目指す 研究者・実践家を育てる教育者を目指す など

専門職大学院 福祉マネジメント研究科

専門実践教育訓練給付金制度
厚生労働大臣指定教育訓練講座

実践とマネジメントの両輪で、
現場にイノベーションをもたらす。



8つの特長

- 1 実践力の向上を目指す**
基本の再確認と最新の動向・技法を学び、対人支援専門職としての実践力の向上を目指します。
- 2 マネジメントできる力の獲得**
現場のサービス向上を図り、チームや組織をマネジメントできる力の獲得を目指します。
- 3 組織のあり方等について振り返り言語化**
事例研究やスーパービジョンを通して、自身や所属組織のあり方等について振り返り言語化します。
- 4 認定社会福祉士の単位を取得**
多数の講義が、認定社会福祉士の大学院ルートに位置づけられています。
- 5 1年間で修士(専門職)の学位を取得**
最短で1年間、現職継続者で長期履修者の場合には2年間で、修士(専門職)の学位が取得できます。
- 6 遠隔地でも仕事をしながら学べる**
オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド授業を導入し北海道や沖縄など遠隔地からの入学者も増えています。
- 7 アクセスが便利**
対面授業は、清瀬キャンパス(西武池袋線「清瀬」駅から徒歩6分)と文京キャンパス(東京メトロ丸の内線「茗荷谷」駅から徒歩5分)で行います。
- 8 多様な仲間との出会い**
多様な仲間との交流や自由で対等な議論を通して、すぐに役立ち、生涯にわたるネットワークが築けます。

教育理念

日本社会事業大学福祉マネジメント研究科(専門職大学院)は、社会福祉分野における高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的として、日本で最初に開設された福祉専門職大学院です。人権の尊重、社会正義の実現、共生への責任、多様性の尊重といったソーシャルワークの価値に基盤を置き、人々のニーズと社会の変化に対応し、実践の改善と開発を進め、社会の変革と人々のウェルビーイングの実現に貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

本学では、教育目標を実現するために、以下のような方を入学者として求めています。

- ア.自己と他者を、人格を持つ個人として尊重できる人
- イ.人々のウェルビーイングは、その人が置かれた環境と深く関係しているという考え方を理解し、その人をとりまく環境である家族、組織、地域及び社会に対して関心を高く保ち、これらの環境の改善や改革に取り組む意志を有する人
- ウ.自身の社会福祉実践力の向上はもとより、自己が属する組織や団体の福祉実践力、あるいは地域や社会の福祉力の向上に意欲や関心を有する人
- エ.社会福祉などの対人援助実践、あるいは社会福祉などの機関・組織・事業所において運営管理の業務に携わり、自らの実践を幅広く振り返る経験を有する人

「アドミッション・ポリシー」の詳細は
本学Webサイトをご確認ください。



修業年限	1年(標準修業年限) 2年(長期履修制度を利用する場合)
定員	50名
学位	福祉マネジメント修士(専門職)

研究科長メッセージ



先行き不透明な時代にこそ
福祉が果たす責務がある。

福祉マネジメント研究科
研究科長
鶴岡 浩樹 教授

少子高齢化、多死社会、人口減少、度重なる災害、格差拡大など、先行き不透明なVUCAと呼ばれる現代において、福祉の重要性は益々高まっています。専門職大学院ではこのような時代の現場を支える福祉専門職、すなわち、状況を的確に見極め、柔軟に対応し、ソーシャルアクションや社会変革をもたらす専門職の養成を目指します。

本研究科は、日本で最も歴史のある福祉系専門職大学院です。20年の歳月を経て確立されたリカレント教育の手法をもとに、今日的なカリキュラム、オンライン授業の活用、時間割など仕事を続けながら学べる体制を整え、現場経験豊富な講師陣が指導にあたります。多様な専門職、さまざまな立場の方々が集い、意見を交わしながら学び合い、実践力とマネジメント力を高めていきます。

本研究科で教育の核となるのは、経験を学びに変える力で、言語化、省察、対話、批判的思考という4つの力を磨いていきます。最新理論による学びと実践への活用を繰り返して考察を深め、職場や地域に実践知をもたらし、地域共生社会の一端を担うことのできる省察的实践家を養成します。

Pick Up

仕事と両立しやすい授業形態

授業は木・金曜日と土曜日で実施します。そのうち、木曜日はオンライン授業のみ、金曜日はオンライン授業が中心ですが一部ハイブリッド授業です。土曜日は対面授業が中心ですが、一部、オンライン授業があります。演習は対面を原則としつつ、一定割合オンラインで受講できます。

※ハイブリッド授業とはオンラインと対面のどちらでも受講が可能な授業形態です。

※オンライン授業は全て同時双方向型遠隔授業です。

※オンラインで受講する場合は、各自にてインターネット環境、ノートPC等によるWebカメラ、マイクを用意していただく必要があります。



▶ カリキュラムの方針と構造

» カリキュラムの方針

社会状況の変化に伴い、福祉現場の課題は多様化、複雑化しています。支援する側も複数の分野にまたがり、様々な制度の知識と、多職種・多機関と協働できる力が必要とされています。このような現状を踏まえ、人権の尊重と共生社会を担う人材養成を念頭に、実践力の向上や組織運営などマネジメント力の獲得を目指します。自らの実践を省察することを教育の中核に置きます。質の高い福祉実践に有益な知識や理論を獲得したうえで自らの実践を振り返り、記述し、概念化し、評価し、次なる実践に結びつける、このサイクルを意図的に展開できる人材の育成をカリキュラム方針に据えています。

» カリキュラムの構造

福祉基盤系科目群

福祉専門職として修得しておくべき基礎知識や共通基盤を再確認します。

福祉人材の育成と管理系科目群

ソーシャルワーク・スーパービジョン、人材育成、人と組織の理解の3分野の理論と実践を学びます。

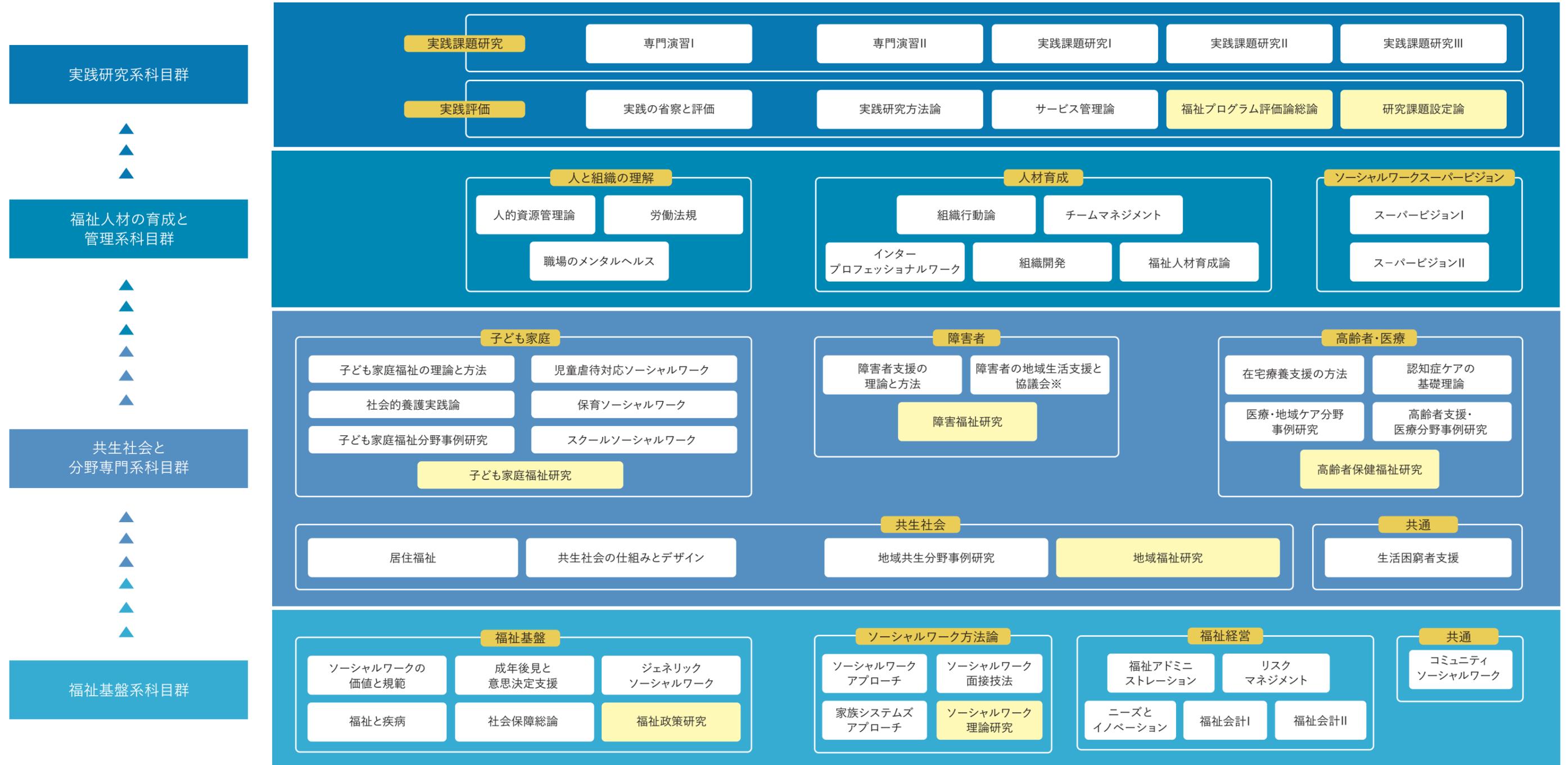
共生社会と分野専門系科目群

共生社会をふまえ、子ども家庭、障害者、高齢者、地域・医療の各分野の理論と事例から学びます。

実践研究系科目群

実践を言語化し、評価する力を養います。講義や演習で得た知識を活かしながら、自らの実践上の課題に取り組み、実践課題研究としてまとめます。

[2025年度参考]



特別講座I
(災害ソーシャルワーク)

※「障害者の地域生活支援と協議会」は現在、休講中です。 社会福祉学研究科(研究大学院)との合同授業

履修形態とキャリア形成支援

社会福祉領域は実践と学問の距離が近い分野です。福祉マネジメント研究科(専門職大学院)では、仕事と学びの両立を積極的に支援する体制を整えることで、実践を学びに活かし、学びを実践に活かす、この循環を促します。長期履修制度、修了後の学びを支援する修習生制度、認定社会福祉士の研修認定科目などを整えています。

履修形態

1年間 | 通常履修の流れ

4月	● 入学式 ● オリエンテーション ● 指導教員決定
6月	● 実践研究計画書提出 前期の実践研究計画を提出する。 ● 学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
9月	● 実践研究中間報告会 前期に取り組んだ実践研究について発表する。
10月	● 実践研究計画書提出 後期の実践研究計画を提出する。
1月	● 実践研究報告書の提出
2月	● 実践研究報告会 実践研究を含めた学びの総括を発表する。
3月	● 学位授与式(修了式)

標準修業年限は1年です。この場合、金曜日の午後に演習(年10回程度)があります。平日(木・金)の講義・演習はオンラインと対面(文京キャンパス)を中心に実施します。土曜日の講義と演習(年20回程度)は清瀬キャンパスと文京キャンパスにわかれます。平日日中も学びにあてることができる方は、社会福祉学研究科(研究大学院)の授業を履修・聴講できます。

<1年履修例>

※2025年度参考

	月	火	水	木	金	土
1限(9:00~10:30)						講義
2限(10:40~12:10)						
3限(13:00~14:30)						
4限(14:40~16:10)					演習10回	演習20回
5限(16:20~17:50)						
6限(18:50~20:20)				講義	講義	計30回
7限(20:30~22:00)						

2年間 | 長期履修の流れ

1年次	
4月	● 入学式 ● オリエンテーション ● 指導教員決定
6月	● 実践研究計画書提出 1年目の実践研究計画を提出する。 ● 学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
1月	● 実践研究中間報告会
2年次	
6月	● 実践研究計画書提出 2年目の実践研究計画を提出する。 ● 学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
12月	● 実践研究報告書の提出
1月	● 実践研究報告会 実践研究を含めた学びの総括を発表する。
3月	● 学位授与式(修了式)

仕事と学びの両立を支援するために長期履修制度を設けています。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。平日(木・金)の講義はオンラインと対面(文京キャンパス)を中心に実施します。土曜日の講義と演習(年15回×2年)は清瀬キャンパスと文京キャンパスにわかれます。

<2年履修例>

※2025年度参考

	月	火	水	木	金	土
1限(9:00~10:30)						講義
2限(10:40~12:10)						
3限(13:00~14:30)						
4限(14:40~16:10)						演習15回
5限(16:20~17:50)						
6限(18:50~20:20)				講義	講義	2年で計30回
7限(20:30~22:00)						

修習生制度 | 福祉マネジメント研究科(専門職大学院)を修了後、手頃な費用負担で学びを継続できる制度です。講義の聴講が可能です。1年更新で原則2回まで利用できます。修了後、一定期間、実践に集中した後に制度を活用することも可能です。

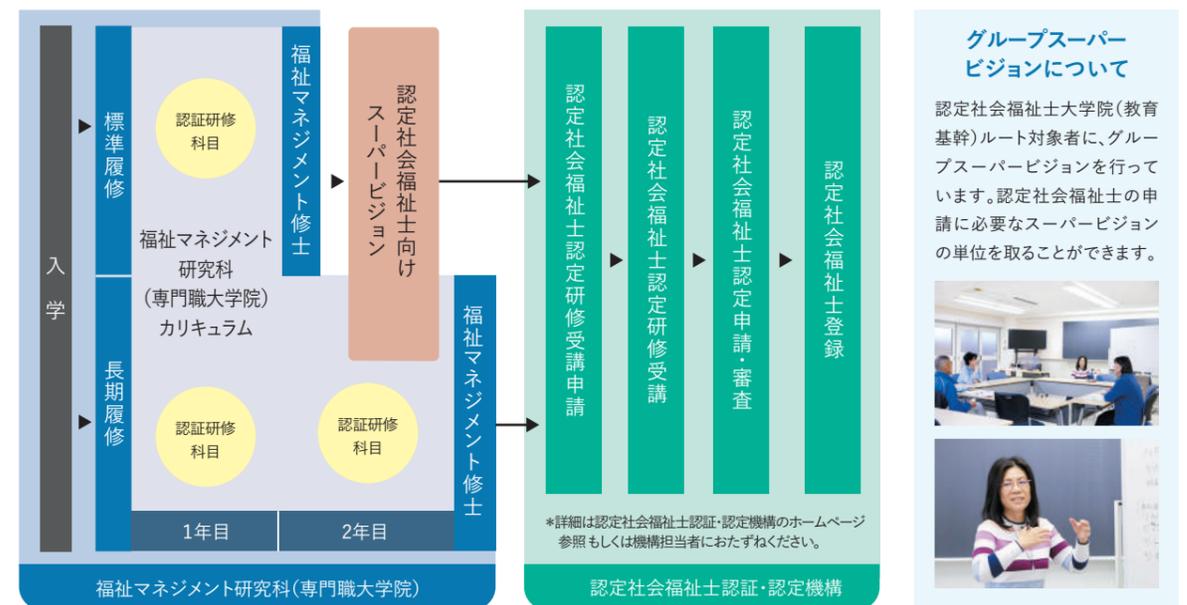
キャリア形成支援

充実したカリキュラムで認定社会福祉士を養成

社会福祉士の上位資格として、認定社会福祉士が設けられています。本学福祉マネジメント研究科(専門職大学院)で開講している授業のうち25科目は認定社会福祉士の研修科目として認められています(2025年度)。認定社会福祉士認定・認定機構は2020年度に、認定社会福祉士の取得ルートに「大学院(教育基幹)ルート」を新設しました。これにより、本学福祉マネジメント研究科(専門職大学院)在籍中に、「大学院(教育基幹)ルート」で必要とされる18単位のうち、スーパービジョン実績を除く認定研修科目の16単位を選択し単位修得することが可能となります。またスーパービジョンについても、在学中もしくは修了後一定期間内において、本学スーパーバイザー教員に希望することができます。

※認定制度の詳細は、認定社会福祉士認定・認定機構ホームページでご確認ください。

本学での認定社会福祉士大学院(教育基幹)ルートへの対応 [2025年度参考]



グループスーパービジョンについて

認定社会福祉士大学院(教育基幹)ルート対象者に、グループスーパービジョンを行っています。認定社会福祉士の申請に必要なスーパービジョンの単位を取ることができます。



※認定社会福祉士制度においては、研修実施機関として、①職能団体 ②教育機関(大学、大学院など) ③国及び地方公共団体(指定及び委託も含む) ④社会福祉法人及び医療法人等 ⑤その他の団体(営利法人を含む)などが想定されています。
※研修認定は「認定社会福祉士認定・認定機構」にて行われます。
※一部変更になる場合があります。

認定社会福祉士制度とは

高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士のキャリアアップを支援する仕組みとして実践力を認定する「認定制度」で、「認定社会福祉士」及び「認定上級社会福祉士」の2種があります。「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正時に衆議院及び参議院で附帯決議された「専門社会福祉士及び専門介護福祉士の仕組みについて、早急に検討を行う」に基づき実施され、制度運営、研修実施団体の認証、認定社会福祉士・認定上級社会福祉士の認証は、「認定社会福祉士認定・認定機構」にて行われます。

詳細は、認定社会福祉士
認定・認定機構ホームページ

<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/>



認定社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、所属組織を中心とした分野における福祉課題に対し、倫理綱領に基づき高度な専門知識と熟練した技術を用いて個別支援、他職種連携及び地域福祉の増進を行うことができる能力を有することが認められた人です。

認定上級社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、福祉についての高度な知識と卓越した技術を用いて、倫理綱領に基づく高い倫理観を持って個別支援、連携・調整及び地域福祉の増進などに関して質の高い業務を実践するとともに、人材育成において他の社会福祉士に対する指導的役割を果たし、かつ実践の科学化を行うことができる能力を有することを認められた人です。



福祉マネジメント研究科 (専門職大学院) × 福祉マネジメント研究科 (専門職大学院)
須江 泰子 准教授 × 田邊 総男 さん

他職種の仲間とのディスカッションを通して、自身の課題を見つけ出し、「問い」と向き合う日々

田邊 私は自治体の社会福祉専門職として長年勤務しています。現場で経験を積んできた一方で、管理職という立場になってからは、後進をどう支えていけばいいのが悩むことが増えました。そこで、自分のこれまでの実践や考え方を一度きちんと整理したいと考えようになりました。

須江 田邊さんのように現場での経験が豊富な方でも、新たな立場になると戸惑うことが出てきます。専門職大学院は、まさにそのような方が現場で感じてきた葛藤を言語化し、問いを立て、自分なりの答えを見つけていく場所だと思っています。

田邊 本大学院を知ったきっかけは、職場で見た大学のリカレント講座の案内です。受講してみたところ授業の内容がとても面白く、もっと深く学びたいと思ったのですが、当時は平日夜間の通学面に不安があり迷っていました。そんな時、授業がオンライン対応になったことを知り、思い切って願書を提出しました。

須江 研究テーマはどうやって決めましたか？

田邊 私の研究テーマは、政令指定都市の社会福祉職の人材育成について、その現状と課題を明らかにすることです。自身が働いている現場そのものが研究対象であり、切実なテーマでした。入学当初は、自分のスキルアップへの関心が高かったのですが、授業やゼミを通して若手や中堅職員の間・状況について学ぶ中で、後進を育てる管理職としての自覚がより芽生えました。

須江 経験豊富な実践者が、自らを省みながら後進を支える視点を持つことは、現場にとって非常に大きな意味があります。ゼミでは、異なる専門分野の仲間と意見を交わす中で、視野を広げることができたのではないのでしょうか。

田邊 ゼミはディスカッション中心で、とても大きな刺激を受けています。他職種の仲間たちと悩みを共有したり、私にはなかった視点に触れたりしながら、「自分はこのままでいいのか」という問いと向き合い続けました。

須江 現場の課題を真摯に見つめるとともに、自分の在り方を問い続けた田邊さんの姿勢は、本当に素晴らしいと思います。これからも、研究で得た視点を実践に活かし、後進の育成にご尽力ください。応援しています。

実践を省察し、多様な視点に触れることで、自分の役割について言語化することができた

下川 私は小児周産期の病院でソーシャルワーカーとして働いています。小児病棟での業務においては、患者さんはもちろん、ご家族への支援のあり方について悩むことも珍しくありません。そこで福祉職としての視点を整理したいと考え、大学院に進学しました。

木戸 実践での課題意識から大学院に進学される方は多いですね。日々の仕事に励みながら実践を振り返る時間を確保するのは難しいことですが、ゼミでは多様な視点・角度から、支援のあり方を探究する姿勢を大切にしています。

下川 ゼミには高齢者・障害者支援、病院、学校、行政など、さまざまな分野からソーシャルワーカーが集まっており、自分の職場だけでは得られない視点に触れることができました。特に、私自身の課題意識や業務のあり方について議論を重ねる中で、患者さんだけでなく、その周りのご家族を支える「家族支援」の重要性を改めて認識し、病院ソーシャルワーカーとしての役割を言語化できたことは大きな学びでした。

木戸 実践現場では目の前の課題に追われ、悩みを抱え込んでしまうこともあります。ゼミでその気持ちを整理し、異なる角度から考え直すことで、新たな気づきを得る場になればと考えています。

下川 ゼミでの対話を通じて、自分の考えを明確に伝えられるようになりました。特に退院後の在宅療養支援について議論する中で、多職種と連携しながら「家族支援」に取り組む重要性を実感しました。ご家族の心情に寄り添いながら、適切な支援のタイミングを見極めていきたいです。

木戸 ソーシャルワークでは、支援者の視点が重要です。多様な立場のゼミ生と意見を共有することで、これから実践の幅が広がるのではないのでしょうか。

下川 はい。在学中はソーシャルワークの理論を中心に学びましたが、修了後は修習生制度を活用し、チームマネジメントや人材育成にも取り組みたいと思っています。病院では多職種連携が不可欠なので、ここでの学びを現場に生かしていきます。

木戸 現場の実践は一人で完結しません。ゼミで得た知見を持ち帰り、還元していくプロセスが大切です。これからも学びを深化させ、専門性を高めてほしいと思います。



福祉マネジメント研究科 (専門職大学院) × 福祉マネジメント研究科 (専門職大学院)
下川 仁美 さん × 木戸 宜子 教授



鶴岡 浩樹 研究科長 教授
総合医として地域医療に従事して32年目。大学病院、一般病院、診療所、介護保険施設など地域を舞台に様々な設定で、保健・医療・福祉・介護に関わる方々と仕事をしてきました。この経験を活かし、皆さんと共に現場の課題を考えていきたいと思っています。

【略 歴】
1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県藤沢町民病院、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年、つるかめ診療所開設。2013年より現職。認知症サポート医。日本医師会認定産業医。

【主な研究分野】
地域医療、プライマリ・ケア、在宅医療、多職種連携、福祉人材育成、EBM、介護ロボット



木戸 宜子 教授
昨年、ソーシャルワーク実践、スーパービジョンが注目されてきています。実践者として専門性を高めるには、実践のふりかえり、意味づけが必要です。そのために実践の根拠としてのソーシャルワーク理論・アプローチを重視し、実践内容を客観的に分析し、考察する視点を養っていきたくと考えます。

【略 歴】
1989年、日本社会事業大学卒業。社会福祉士。1990年、国立東京病院ソーシャルワーカーとして勤務。2002年、日本社会事業大学研究科専任教員。2003年、日本社会事業大学大学院博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。2004年、日本社会事業大学専門職大学院助教授を経て現職。

【主な研究分野】
地域を基盤としたソーシャルワーク実践・理論、ソーシャルワークスーパービジョン



瀧脇 憲 特任准教授
学生時代から障害者の活動に関わり、卒業後は生活困窮者支援を通して研究・提言に携わってきました。皆さんとともに実践課題の意味を深め、創発的な議論ができることを期待しています。

【略 歴】
2002年、東京外国語大学大学院修士課程修了。東京・山谷地域で生活困窮者支援を行うNPO法人自立支援センターふるさとの会に入職。理事、常務理事を経て、2021年より2024年まで代表理事。山谷ではNPO団体、医療・介護関係者等と協力して「地域ケア連携をすすめる会」を運営。他に、ホームレス支援全国ネットワーク、居住支援全国ネットワーク、全国日常生活支援住居施設協議会の理事、認知症当事者勉強会世話人等を担う。2008年～2021年東京外国語大学非常勤講師(社会学)。

【主な研究分野】
ホームレス、生活困窮者支援、すまい・まちづくり、ケアの思想、ソーシャルセクター、アドボカシー



北川 進 講師
福祉現場では、情熱と実践力だけでは越えられない壁に憤りや無力感を感じることにあります。その壁に何度も心折れそうになりながらも立ち向かってこられたことでしょう。その壁を越えるために理論を学び合い、ご自身の答えをつかんで頂きたいです。

【略 歴】
1996年、日本社会事業大学卒業。東北福祉大学大学院総合福祉学研究科修士課程修了。児童養護施設指導員を経て宮城県社会福祉協議会入職。主に地域福祉業務に携わり、2012年4月より2年間、東日本大震災被災地である石巻市社会福祉協議会に派遣され、ささえあい総括センター所長として被災者支援業務に従事。震災から11年間被災者支援業務を担当。2023年4月より現職。社会福祉士。

【主な研究分野】
災害時ソーシャルワーク、災害ボランティア支援、社会福祉協議会における地域福祉展開

[担当科目は2025年度開講科目]
※専門演習Ⅰ・Ⅱ、実践課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
「SW」はソーシャルワーク、「SV」はスーパービジョンの略称です。
QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。



井上 由起子 教授
住宅と福祉がクロスする領域を専門とし、本学では人材育成、サービス管理、チームマネジメントなどを担当しています。実践力の向上に資する組織やチームのあり方について、理論と実践を結びながらディスカッションし、切磋琢磨できる学びの場の構築を目指しています。

【略 歴】
1990年、日本女子大学卒業。清水建設勤務を経て、横浜国立大学工学研究科修了。博士(工学)。2001年、国立医療・病院管理研究所 主任研究官。組織再編により国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 上席主任研究官。2012年より現職。一級建築士、社会福祉士、宅地建物取引士。

【主な研究分野】
高齢者福祉、居住支援、高齢期の住まい、福祉人材育成、福祉経営



須江 泰子 准教授
実践上の課題や葛藤に向き合う方たちが、志のある仲間とディスカッションを重ね、複雑な社会課題を多様な視点から共に考えあう場にしていきたくと思っています。

【略 歴】
1992年、立教大学文学部教育学科卒業。2003年、筑波大学大学院修士課程教育研究科カウンセリング専攻修了。社会福祉士、公認心理師、臨床心理士。浦和市役所を経て埼玉県庁入職。児童相談所勤務21年。東京大学医学部附属病院精神神経科を経て2022年4月に本学着任。2025年より現職。

【主な研究分野】
子ども家庭福祉、支援者支援、児童虐待対応と予防、ソーシャルワーク人材育成



永島 徹 特任准教授
認知症の人や家族の地域生活支援を入口にした、地域共生社会に向けたソーシャルアクションを実践しているからこそ見えてきた様々な現実があります。今とこれから必要とされる専門職の理論と実践力を、みなさんとともに高めていきましょう。

【略 歴】
2009年、日本社会事業大学大学院修士課程修了。2014年、同大学院後期課程満期退学。精神科ソーシャルワーカーとして当事者の社会復帰施設に従事。その後、一般民間企業の経験を経て、高齢者在宅介護支援センター勤務。2003年にNPO法人風の詩を設立、理事長に就任。

【主な研究分野】
認知症の人や家族の地域生活支援、認知症施策とチームオレンジ、意思決定支援、共生社会とソーシャルワーク、ソーシャルアクション

▶ 兼任教員 (本学教員)		※黒字:担当科目	
内田 宏明 教授	子ども家庭福祉研究	藁沼 幹男 教授	地域福祉研究
小田 美季 教授	障害福祉研究	倉持 香苗 准教授	地域福祉研究
木村 容子 教授	SW理論研究	佐々木 貴雄 准教授	福祉政策研究
貫川 信幸 教授	研究課題設定論、福祉プログラム評価論総論		
▶ 非常勤講師		※黒字:担当科目	
朝日 雅也 講師	障害者支援の理論と方法	土屋 佳子 講師	スクールSW
江端 直樹 講師	組織開発	猶木 貴彦 講師	労働法規
大柳 重光 講師	職場のメンタルヘルス	林 晃弘 講師	人的資源管理論
木幡 伸子 講師	家族システムズアプローチ	古部 賢一 講師	社会保障総論
園田 巖 講師	保育SW	松山 毅 講師	SWの価値と規範
田中 千枝子 講師	SW理論研究		



1年履修

管理職であった
自分のコミュニケーションを振り返る

秋谷 直子さん
2025年3月 福祉マネジメント研究科 修了
社会福祉法人東京コロニー 勤務

研究テーマ

管理職経験を通じたコミュニケーション
実践の振り返りと課題の考察

障害福祉の現場で働く中、管理職としての指導力やリーダーシップに限界を感じ、実践を見直すために進学しました。研究では、部下や同僚とのコミュニケーションを振り返り、自身のマネジメント課題を探求。自己分析やインタビュー調査を通じて、育成に必要な関わり方を整理し、改善に向けた具体的な手法を学びました。本大学院で得た最大の学びは「言語化する力」です。曖昧な表現が多かった自分の伝え方に気づき、考えを言葉で整理することの大切さを実感しました。支援現場ではこの力を生かし、より明確な意思疎通を心がけています。今後も実践と学びを結び付けて支援の質を高めていきたいです。

学問と仕事を両立する工夫 隙間時間の活用

できるだけ早く就寝し、少し早く起きて出勤前や通勤の時間をうまく活用することを心がけました。仲間と助け合い、励まし合いながら学んだので、対面授業や週末のゼミが楽しく、いつも元氣と刺激をもらっていました。



1年履修

「自分ごと」を生む
地域づくりを目指して

日下 竹彦さん
2025年3月 福祉マネジメント研究科 修了
くにたち地域コラボ役員
一般社団法人 ネオおば 代表理事

研究テーマ

市民公益を拡張するソーシャルワークのダイナミクス
～「自分ごと」が生まれる場の要素～

地域の中間支援組織で活動する中で、ソーシャルワークの視点で地域と関わることの必要性を感じ、進学を決意しました。これまでの実践を省察し、市民の活動が「自分ごと」になる背景を探る中で、関われる余白や自己有用感といった要素に注目しました。大学院での学びは、実践を言語化する力や、主観から距離を置く視点を養う機会になり、自身の思考や支援の在り方を深める貴重な時間となりました。多様な仲間との対話を通して、ピアスーパービジョンの力や支援者支援の重要性を実感し、今後も地域の中でソーシャルワークを活かした関わりを広げていきたいと考えています。

学問と仕事を両立する工夫

仲間と共に、試行錯誤の連続を乗り越えて

年間のプログラムは密度が高く、研究テーマにたどり着くまでの省察に苦労しました。自分の実践を言葉にする難しさに何度も直面しながらも、仲間や教員からのフィードバックが大きな支えとなりました。睡眠不足の日々でしたが、互いに励まし合う環境があったからこそ、最後まで走り抜けることができました。



2年履修

専門職の育成を目指し
組織内に学びの場を創出

浅沼 都さん
2025年3月 福祉マネジメント研究科 修了
静岡市役所 清水区清水福祉事務所子育て支援課 勤務

研究テーマ

市役所内福祉専門職の人材育成に関する実践的研究

福祉事務所で管理職となり、福祉専門職の育成が組織的に行われていない現状に課題を感じました。先進自治体の取組に学ぼうと情報収集を進める中で、本大学院のカリキュラムに出会い、「知りたいことがここにある」と進学を決意。研究では、自主的に立ち上げた「福祉職交流カフェ」の実践を通して、専門職同士がつながる場の意義を明らかにしました。特に、他職場の先輩職員の姿勢から倫理観を学ぶ機会としても重要であることが分かりました。今後は、こうした取り組みを基盤に、組織内に福祉専門職の育成体制を構築していきたいと考えています。

学問と仕事を両立する工夫 時間の使い方と仲間の支え

大学院での学びが業務に直結する意義を上司に伝え、業務目標に研究内容を組み込むことで協力を得ました。また、新幹線での通学時間を有効活用し、課題や資料の整理に集中することで、限られた時間の中でも効率的に取り組むことができました。



2年履修

現場に根差した
マネジメントを学び直す

脇 健仁さん
2025年3月 福祉マネジメント研究科 修了
株式会社ゆりかご 代表取締役

研究テーマ

職種を超えたチームを機能させるためのアプローチ
～定期巡回・随時対応型訪問介護看護の職場から考察する～

経営者として事業運営を進める中で、自身の方針が現場でどう機能しているのか、理論的に確かめたいと感じ進学を決意しました。研究では介護職と看護職が一体となって動くチーム運営に焦点を当て、それぞれの専門性を活かしながら協働する方法を探りました。大学院ではマネジメントの理論を学び、経験則に頼らず根拠を持って判断できるようになりました。また、福祉会計やスーパービジョンなど、経営と現場に直結する知識を得られたことで、より質の高いサービス提供を目指す自信が生まれました。今後は、最強のプレイングマネージャーとして、理念である「最期まで住み慣れた場所で過ごせる水戸」の実現に向け、地域密着の経営に取り組みます。

学問と仕事を両立する工夫 研究と実務の相乗効果

勤務調整に協力してもらえよう、学びの成果を共有し、納得を得られるよう工夫しました。通学には時間的余裕を持ち、朝型の生活に切り替えたことで、生活全体のリズムも整いました。研究成果が厚生労働大臣・奨励賞という形で評価され、職員と表敬訪問に行く経験もできたことは、大きなモチベーションになりました。

実践研究テーマ

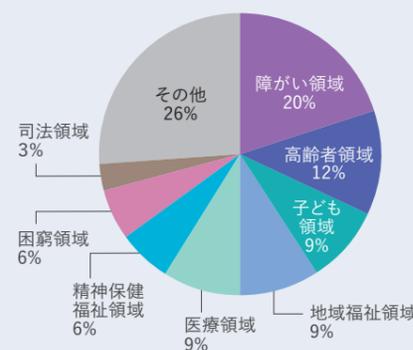
講義で得た理論や解釈を用いて自らの実践を省察し、抽出された新たな課題に意図的に取り組みます。この一連の過程が実践研究です。

〈2024年度〉

- Z市の福祉職の人材育成への取り組み
～福祉職交流カフェの可能性を探る～
- 居宅介護支援事業所における後輩介護支援専門員の育成に必要な要素を探る
～先輩・主任介護支援専門員の立場を活かして～
- 政令指定都市の行政福祉職における、個人と組織が共に成長し続けるジョブローテーション
～Z市社会福祉職アンケートとY市インタビューから～
- 児童福祉司スーパーバイザーの育成と支援についての考察
- Z県立医療福祉センターにおける入所支援課のチーム体制と課長職の役割
～SV体制の再構築に向けた取り組みをととして～
- 生活保護分野に求められる多職種・多機関連携力について
～地域のゆるやかなチームの形成期に焦点を当てた一考察～
- 自職場における若手職員の人材育成について
～パーソナルミッション作成の取り組み～
- 高齢や障害のある受刑者の社会復帰を促進するための取り組み
～刑務所における部門横断型多職種チームによる個別支援の実践～
- 社会リハビリテーションのあり方に関する探索的研究
～中途視覚障害者の心理面に配慮した支援の実践から～
- 管理職であった自分のコミュニケーションを振り返る
～自分と向き合い、前に進む～
- 市民公益を拡張するソーシャルワークのダイナミクス
～「自分ごと」が生まれる場の要素～
- 障害者の社会適応を促進するための就労移行支援について
- 義務教育における合理的配慮が必要な子どもの進路支援において相談支援専門員ができることは
～将来の生活を自分らしく生きることができる支援体制とは～
- 小規模組織が安定的に事業を展開するための要素についての一考察
～小規模組織へのインタビュー調査を踏まえて～
- 学校とスクールソーシャルワーカーの協働について
～協働の中からスクールソーシャルワーカーの果たしている役割を考える～
- 生活支援コーディネーターの自己効力感に関連する因子の特定
- 高齢者介護施設における介護人材を確保するための方策
- 精神科訪問看護における多職種連携・協働の在り方

数字で見る福祉マネジメント研究科(専門職大学院)

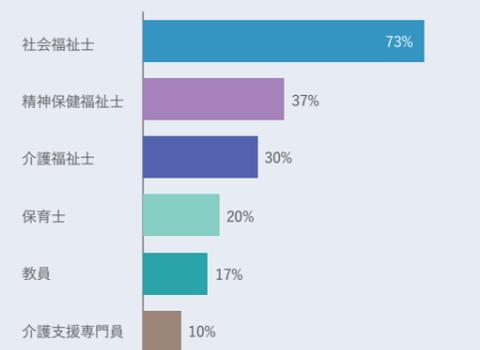
〔領域別〕 ※2024年度修了者



〔年代別〕 ※2021年度～2025年度入学者



〔保有している資格〕 ※2025年度入学者



研究大学院 社会福祉学研究所

社会福祉を学術的に探究し、
社会課題解決の
糸口を見出す。



4つの特長

1 実践的な「研究能力向上」に力を注ぐ大学院

今日の社会福祉は、福祉現場での実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、計画と研究を抜きには進められなくなっています。本研究科では、実践研究者としての、あるいは研究的実践家としての「研究能力」を高めることを主眼としています。

2 学びの概要(博士前期課程・博士後期課程)

博士前期課程(修士課程)は、講義・演習・修士論文指導を体系的に学べる、「領域別研究」と「研究方法論」等の科目で構成しています。博士後期課程(博士課程)は、博士論文指導と論文作成に至るまでの予備審査で構成しています。

3 人材輩出

博士前期課程は「社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践研究者及び研究的実践家の養成」、博士後期課程は「社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践研究者および研究的実践家の養成」「社会福祉実践の向上や発展に貢献する優れた実践家・研究者を育成できる教育者の養成」を主たる目的とし、新しい社会福祉系大学の教育・研究モデルの構築を目指しています。

4 福祉プログラム評価履修コースを開設

社会福祉学研究所では、2010年4月より「福祉プログラム評価履修コース」を開設。プログラム評価とは、よりよい社会プログラムを構築し、改善を図り、その存廃や発展の方向性に関する意思決定をするために行われる体系的かつ科学的なアプローチ法のことです。効果的な福祉プログラムの形成・向上に強い影響力をもつプログラム評価者および評価研究者の育成を目指しています。

研究能力向上に力を注ぐ大学院

社会福祉学研究所は、複雑化してきている社会福祉問題、学際化してきている社会福祉研究に対応して、社会福祉学の理論化と社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めることを目的に設置されました。

今日の社会福祉は、福祉現場での臨床実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、評価と研究を抜きには進められなくなっています。前期課程では、社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を、後期課程では、社会福祉実践の向上の発展に資することのできる高度の実践的研究者・研究的実践家・教育者を育成します。

アドミッション・ポリシー

求める学生像

本学大学院社会福祉学研究所博士前期課程では、社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者及び研究的実践者を養成する目的で、以下のような人材を求める。博士後期課程では、研究者として自立して研究活動を行い高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究者及び研究的実践者、ならびに優れた実践者・研究者を育成できる教育者を養成する目的で、以下のような人材を求める。

1. 研究に基づく社会福祉実践向上への強い目的意識を有する者

現代社会の変化に伴って変動する社会福祉のニーズに対して常に鋭敏な関心をよせ、それらのニーズをもつ人への有効な支援のあり方を科学的に解明して、社会福祉理論、政策及び実践の向上に資することに強い目的意識と熱意、使命感を有する者。

2. 社会福祉理論、政策及び実践的研究を遂行する能力を有する者

現代社会の多様な社会福祉ニーズの解明と科学的な問題解決、社会福祉理論、政策及び実践の向上への貢献を行うために、必要な社会福祉学の基礎知識と総合的な学力を有し、柔軟で論理的な思考により社会福祉理論、政策及び実践的研究を遂行しようとする者。

3. 国際的な視点を有する者

アジアを含めて広く世界の社会福祉に関心を寄せ、国際的な視点をもって活躍したいと考える者。

4. 生涯にわたる自己研鑽する者

生涯教育やリカレント教育によって、生涯にわたって自己研鑽に励もうと考える者。

博士前期課程(修士課程)

修業年限	2年(昼間)
定員	15名
学位	修士(社会福祉学)

博士後期課程(博士課程)

修業年限	3年(昼間)
定員	5名
学位	博士(社会福祉学)

研究科長メッセージ



多彩な知見を持つ
教員と仲間が社会に
貢献する研究を深める。

社会福祉学研究所
研究科長
森 千佐子 教授

社会福祉の実践に貢献する実践者や研究者の育成を目指す本研究科では、博士前期と後期の体系的な教育課程によって研究力を育みます。前期課程では、社会福祉の課題に対し、援助方法や実践プログラム、制度政策のあり方、理論等を科学的に追求する能力を養います。後期課程では、研究課題を科学的に追求する自立した研究能力、社会福祉理論・政策、実践の向上・発展に寄与する実践研究能力、社会福祉学の豊かな学識、国際的・学際的な視野から各専門領域で活躍する能力を身に付けます。

教鞭を執るのは社会福祉とその周辺領域の多様な専門分野で実践・研究に取り組む教員たちです。ゼミや授業を通じて知見を深めるだけでなく、研究計画発表会や中間報告会の際には、多角的な視点から研究内容への助言を得ることができるよう。また、さまざまなバックグラウンドを持つ院生同士が意見交換することで、自身の研究を深めることができます。

入学者の方々には、課題解決にむけて必要なことを探究し、研究を進めていくことを期待しています。そして、研究成果を社会に還元する方法をともに考えていきましょう。

Pick Up

福祉の古典を 数多く所蔵する図書館

本学図書館は、中央社会事業協会(現在の全国社会福祉協議会)が1934(昭和9)年に設置した「社会事業研究所図書」の蔵書を引き継いで開設し、大学附属図書館として教員・学生の教育・研究・学習に資する国内外の図書資料の整備拡充に努めています。そのため、戦前の貴重な図書・資料とともに、戦後の社会福祉の重要な図書・資料も豊富に所蔵しています。現在蔵書数は26万点に達しています。



▶ 博士前期課程（修士課程）

一般教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座

社会福祉学の理論化と、社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めます。

Point 1	社会福祉の広範な知識と研究方法を体系的に学修 社会福祉の歴史や理論をベースとして、専門領域の知識を深めつつ、研究方法を学び、自らの研究に適用させます。	Point 2	研究テーマに応じた指導教員のきめ細かな指導 それぞれ指導教員が配置され、多様化・細分化する研究テーマの深い指導を可能にしています。研究計画発表会・修士論文中間報告会・修士論文発表・審査会などでの発表が義務づけられ、研究成果の発表方法の指導も行われます。
Point 3	大学院専用の実習室など充実した教育環境 研究室やコンピュータを設置した大学院専用の情報計画実習室など環境設備が充実。日本社会事業大学社会福祉学会での発表など新しい社会福祉研究教育を志向しています。	Point 4	現場で活躍する福祉関連従事者も在籍 社会福祉現場で働いている人が現職のまま博士前期課程に在籍し、社会福祉現場の課題と社会福祉研究・教育とを結びつけた研究を進めるリカレント教育及び福祉関係職経験者教育システムを実現しています。

博士前期課程2年間の流れ

1年次		2年次	
4月 ■ 入学式 ■ オリエンテーション ■ 指導教員決定 ■ 履修・コース登録 ----- 履修方法や学生生活の説明を理解し、指導教員を決定し、履修登録する。「福祉プログラム評価履修コース」の登録は1年次に行う。	6月 ■ 学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会） ----- 大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生も参加し、学会の運営に協力する。	4月 ■ オリエンテーション ■ 履修登録 ■ 修士論文題目届提出 ----- 修了要件を確認のうえ履修登録し、修士論文の題目を届け出る。	6月 ■ 学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会） ----- 大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生も参加し、学会の運営に協力する。
5月 ■ 修士論文中間報告会 ----- 2年次生の報告や質疑を聞くことを通して発表方法や研究方法などを学ぶ。	9月 ■ 研究計画発表会 ----- 研究計画の発表・質疑を通じて、2年次の修士論文中間報告会までに必要となる事項を確認する。	5月 ■ 修士論文中間報告会 ----- 修士論文提出予定者は修士論文の中間報告を行い、コメント担当を含む教員による質疑応答にて論文作成の方向性を確認する。	10月 ■ 修士論文題目変更届の締切 ----- 4月に登録した修士論文の題目を大きく変更する場合は変更届を提出する。
1月 ■ 学位申請・修士論文提出 ----- 修士論文作成ガイドラインを参照しつつ修士論文を提出し、学位申請を行う。			
修士論文発表・審査会 ----- 修士論文提出者は指定された方法にて発表・質疑応答を行う。			

学位授与
修士(社会福祉学)取得

カリキュラムの構造 (2025年度参考)

社会福祉基盤科目 …… 社会福祉の歴史や理論を深める …… ● 社会福祉学理論研究・学説史 (教授 村田文世) ● ソーシャルワーク理論研究Ⅰ (教授 木村 容子、非常勤講師 田中 千枝子) ● 社会福祉歴史研究方法論Ⅰ (非常勤講師 松山毅)	領域別科目 …… 専門領域の知識を深める …… ● 福祉政策研究Ⅰ (准教授 佐々木貴雄) ● 地域福祉研究Ⅰ・Ⅳ (教授 田村真広、菱沼幹男、准教授 倉持香苗) ● 子ども家庭福祉研究Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ (教授 内田宏明、准教授 宇野耕司、亀崎美沙子) ● 障害福祉研究Ⅰ・Ⅱ (教授 小田美季、准教授 大部 令絵、冨永健太郎) ● 高齢者保健福祉研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (教授 梶原洋生、下垣光、鶴岡浩樹、森千佐子、特任教授 壬生尚美、准教授 永嶋昌樹) ● アジア社会福祉研究Ⅰ (准教授 ヴィラークヴィクトル)	研究方法論科目 …… 福祉実践を変える力を身につける …… ● 社会福祉学研究方法論概論(研究科長他) ● 研究課題設定論Ⅰ・Ⅱ (教授 田村真広、賛川信幸、菱沼幹男、村田文世) ● 社会福祉調査研究法基礎論 (教授 有村大士、賛川信幸、准教授 大崎裕子、新藤健太) ● 実践研究のための量的データ分析方法論 (教授 有村大士、准教授 大崎裕子、新藤健太、非常勤講師 朴堯星) ● 実践研究のための質的研究方法論 (准教授 新藤健太) ● 福祉プログラム評価論総論 (教授 賛川信幸) ● 福祉プログラム評価論各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (准教授 新藤健太、非常勤講師 大森正博、平岡公一、大山早紀子) ● 福祉プログラム評価特別講義Ⅰ(教授 賛川信幸)
---	---	---

専門英語科目 ----- 国際的視野を持ち、海外文献を読みこなすための専門英語を学ぶ ----- ● 社会福祉学専門英語Ⅰ・Ⅱ (講師 デバコタジバナト)	研究演習 ----- 演習による事例検討や研究方法、個別指導により考察を深め、論文としてまとめる ----- ● 社会福祉学研究演習Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ^(※) ● 研究発表論演習 ^(※) ● 論文指導 ^(※)	実習 ----- 理論のみならずフィールドを理解し実証を行う ----- ● 社会福祉学研究実習Ⅰa・Ⅰb ^(※) ● 福祉プログラム評価実習Ⅰa・Ⅰb (教授 賛川信幸)
--	--	---

(※)2025年度 演習・実習・論文指導 担当教員

教授：有村大士、内田宏明、小原真知子、梶原洋生、木村容子、下垣光、田村真広、鶴岡浩樹、賛川信幸、菱沼幹男、村田文世、森千佐子
 特任教授：壬生尚美
 准教授：ヴィラークヴィクトル、宇野耕司、大崎裕子、亀崎美沙子、佐々木貴雄、永嶋昌樹

開講科目系列時間配置

大学院の授業を木・金・土曜日に集中。社会福祉現場との共存・共修がしやすい時間割構成としています。
 ※一部の科目は、他の曜日に開講する場合があります。

	月	火	水	木	金	土
1時限(9:00~10:30)						
2時限(10:40~12:10)						
3時限(13:00~14:30)						
4時限(14:40~16:10)						
5時限(16:20~17:50)						
6時限(18:00~19:30)						

一部の科目が認定社会福祉士制度 研修認証科目に認証(社会福祉士有資格者対象)

認定社会福祉士認証・認定機構が認定している「認定社会福祉士」の認定制度の研修として、本大学院の7科目(12単位)が2021年度より認証されています。2020年9月から認定社会福祉士の取得ルートに、新たに「大学院(教育基幹)ルート」が新設され、在籍している大学院で対象の認証科目を12単位取得した場合に適用されます。

詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構のホームページをご確認ください。

<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/index.html>



▶ 博士後期課程（博士課程）

新しい社会福祉研究と教育を担う「研究者の養成」を主な目的としています。

Point 1	複数教員による研究サポート 大学院生は論文指導教員の中から主指導教員、その他の教員の中から1名を副指導教員とし、それぞれの担当教員から研究指導を受けます。福祉政策、地域福祉、ソーシャルワーク実践、福祉プログラム評価、保健医療福祉、子ども家庭福祉、障害福祉、高齢者福祉を担当する教員が研究指導科目を開講しています。	Point 2	3段階の予備審査、綿密な指導の下で、博士論文を執筆 博士論文の審査については、第1次予備審査から第3次予備審査までのプロセスを経て、最終審査、最終試験を受けます。予備審査では、1年次から3年次までの各段階における研究計画書等の申請書類を提出し、その計画書等に基づき、口述試験が行われ、第2次予備審査に合格した者は博士論文執筆に取りかかります。
Point 3	評価研究者としての研修を積み「福祉プログラム評価履修コース」 博士前期課程のプログラム評価履修コースに加えて、博士後期課程では福祉プログラム評価の知識を養うと共に指導教員の共同研究や外部資金を活用したプロジェクト研究に関わり、プロジェクトマネージャーの経験を通して自立した評価研究者としての研鑽を積みまます（福祉プログラム評価履修コースの詳細はp.23をご参照ください）。	Point 4	国内外を舞台に、共同研究員として研究プロジェクトに参加 本学社会事業研究所が行う研究プロジェクトに共同研究員やリサーチ・アシスタントとしての登録を経て、海外の社会福祉研究及び国内の各種社会福祉調査、社会福祉研究プロジェクトに参加し、研究を深めると共に、社会福祉に関する先駆的・実践的研究活動を実現します。また、日本学術振興会「特別研究員」他の獲得に向けた経費の補助を行う等、研究者が広い視野をもって福祉の研究・実施に取り組める環境が整っています。
Point 5	それぞれの研究成果を論文にまとめ、関係学会で発表 大学院生は研究指導の成果を論文にまとめ、学術雑誌に投稿する他、その内容を社会福祉学会など関係学会で報告、発表します。		

博士後期課程3年間の流れ

1年次		2年次		3年次	
4月 ● オリエンテーション ● 指導教員決定 ● 履修・コース登録 履修方法や学生生活を理解し、研究テーマ、要点及び主指導教員、副指導教員を決定し、履修登録する。「福祉プログラム評価履修コース」の登録は1年次に行う。 5月 ● 博士後期課程 研究論文発表会 2年次生の発表および質疑応答を聞き、研究方法や発表方法を学ぶ（発表者は第1次予備審査合格者）。	6月 ● 学内学会 （日本社会事業大学 社会福祉学会） 大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生も参加し、学会の運営に協力する。発表内容を「社会事業研究」に掲載する。	12月～1月 ● 博士論文第1次予備審査 【審査項目】 研究計画書、先行研究レビューについて ①研究目的とその意義の明確さ ②先行研究レビューの網羅性、批判的視点及び研究目的との関係 【口述試験】 1) プレゼンテーション 研究計画と先行研究レビューの概要を報告する 2) 討論、質疑応答 3) 審査委員 主指導教員、副指導教員、その他審査委員の3名	5月 ● 博士論文第1次予備審査通過後の発表 博士後期課程2年次5月に実施する博士後期課程論文発表会にて、第1次予備審査における指導事項を踏まえた報告を行う。論文発表会では、研究計画と先行研究レビュー及びこれまでの成果について発表を行う他、第1次予備審査における指導事項とそれに対する対応を明らかにする。報告にあたり、主指導教員、副指導教員の指導を受けた上で発表する。	6月 ● 学内学会 （日本社会事業大学 社会福祉学会） 大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生も参加し、学会の運営に協力する。発表内容を「社会事業研究」に掲載する。	12月～1月 ● 博士論文第2次予備審査 【審査項目】 研究計画書について ①研究計画全体の科学性、整合性 ②翌年度10月またはその次の5月までに完成する可能性 【口述試験】 1) プレゼンテーション 2) 討論、質疑応答 3) 審査委員 主指導教員、副指導教員、その他審査委員の3名
5月 ● 博士後期課程 論文発表会 専任教員と在生は全員参加する。	6月 ● 学内学会 （日本社会事業大学 社会福祉学会） 大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生も参加し、学会の運営に協力する。発表内容を「社会事業研究」に掲載する。	11月～2月 ● 博士論文第3次予備審査 【審査項目】 研究論文について ①研究目的の明確さと重要性 ②研究方法、分析方法、論述の適切さ ③研究結果のオリジナリティと社会的意義 【口述試験】 1) プレゼンテーション 2) 討論、質疑応答 3) 審査委員 審査委員5名	2月 ● 最終審査及び最終試験（博士論文最終審査） 【審査項目】 研究論文について ①研究目的の明確さと重要性 ②研究方法、分析方法、論述の適切さ ③研究結果のオリジナリティと社会的意義（最終試験） 【審査項目】 ①研究課題を科学的に追求する自立した研究能力 ②社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究能力 ③社会福祉学の豊かな学識	学位授与 博士（社会福祉学）取得	



研究指導科目

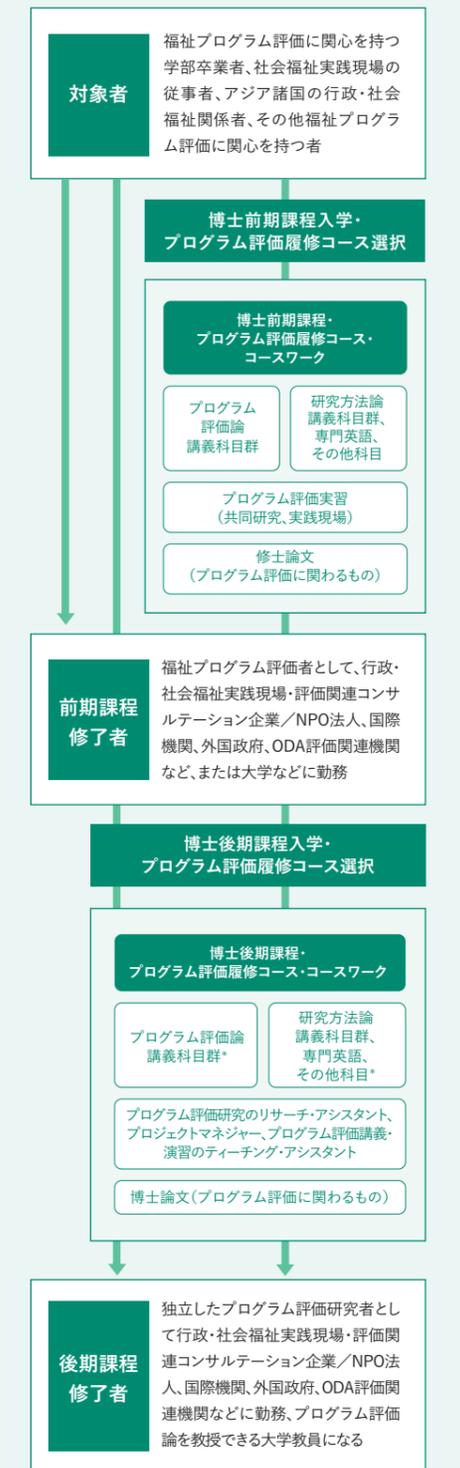
[研究指導科目及び担当者一覧(2025年度)]

研究指導科目の名称	必修単位	自由選択単位	科目担当者
社会福祉学専門研究演習Ia(1年次)	2		教授 有村 大士 教授 小原 真知子 教授 木村 容子 教授 田村 真広 教授 鶴岡 浩樹 教授 費川 信幸 教授 菱沼 幹男 教授 村田 文世 教授 森 千佐子 特任教授 壬生 尚美 准教授 佐々木 貴雄
社会福祉学専門研究演習Ib(2年次)	2		
社会福祉学専門研究演習Ic(3年次)	2		
社会福祉学専門研究演習II	2		
社会福祉学専門研究演習III	2		
社会福祉学専門研究演習IV	2		
社会福祉学専門研究演習V	2		
社会福祉学専門研究演習VI	2		
福祉プログラム評価実習II	1		教授 費川 信幸
博士論文指導I(1年次)	2		社会福祉学専門研究演習の科目担当者と同じ(同上)
博士論文指導II(2年次)	2		
単位数	10		

福祉プログラム 評価履修コース

本履修コースでは、社会福祉実践現場はもちろんのこと、行政、国際機関など、様々な領域において、新しい切り口による福祉プログラム評価のアプローチ法を修得することができます。

履修コースの履修プロセスとコース修了後に期待されるキャリアパス



*前期課程未履修の者

教員×院生 対談



社会福祉学研究所
(研究大学院)

壬生 尚美 特任教授

社会福祉学研究所
(研究大学院)

長谷部 裕美 さん

認知症高齢者の「意思決定支援」を切り口として、 介護福祉士の実践に焦点を当てた研究に取り組む

長谷部 私は新卒から現在まで介護福祉士として現場で働いています。日々の実践でさまざまな専門性を発揮している現場の介護福祉士について、その創意工夫や努力に光を当てられるような研究をしたいと考え、大学院に進みました。

壬生 長谷部さんは学部時代から私のゼミに所属していて、もう8年ほどの付き合いになります。卒業後も連絡や相談を受けていたので、今回大学院で再び一緒に学べてうれしく思っています。長谷部さんの研究テーマである「意思決定支援」は、介護福祉士の専門性に関わる非常に重要な課題です。

長谷部 以前から実務を通して、認知症の方でも適切な支援があれば「やりたい」という気持ちを表現できることを何度も感じてきました。その経験から、認知症高齢者の意思決定支援をテーマに、介護福祉士の実践に焦点を当てた研究をしたいと思いました。先行研究が少ないため、国内外の文献を広く収集する必要があります。大学院の図書館は海外文献のデータベースも利用でき、最寄りの清瀬駅からは国立国会図書館にもアクセスしやすいので、積極的に活用しています。

壬生 介護福祉実践領域の研究はまだ浅く、これからの発展が期待されています。だからこそ、関連領域の理論研究や調査研究の方法を援用して、今後の介護福祉実践の変革・発展に資する学びを積み重ねてもらえればと思います。

長谷部 いつもゼミの時間に限らず丁寧なご指導をいただけて感謝しています。先生のご紹介のおかげで、他大学の先生方や卒業生、他の院生とも交流があり、多様な分野の実践に触れながら学びを深めています。現場での実践と研究の両立は簡単ではありませんが、利用者さんや同僚からの応援が支えになっていて、くじけそうになった時に思い出して研究に励んでいます。今後は、現在の研究テーマをさらに深めるため、博士後期課程に進みたいと考えています。

壬生 長谷部さんのように現場の実感を持ちながら研究に取り組む姿勢は、これからの介護福祉実践や介護福祉教育につながっていくはずで、未来の介護福祉実践を支える礎となるよう、さらなる活躍を期待しています。

若者のメンタルヘルスの課題に取り組む 社会福祉の研究的実践者を目指す

大野 私は大学入学時から若者のメンタルヘルスに関心があり、学部時代に精神保健福祉を学ぶなかで、より探究心が強くなりました。日常生活では問題が表面化していないものの、内面では不安や孤独を抱えている若者はたくさんいます。若い時期の息苦しさが適切に支えられないことは、その後の成人期のメンタルヘルスやウェルビーイングに影響を与えるのではないかと考え、「若者のメンタルヘルス」をテーマに研究を進めています。

賛川 大野さんの問題意識は、若者が困難を経験しながらも「これでいいのだ」と本人が思える環境が必要ではないかという議論にもつながりますので、社会福祉における重要なテーマですね。そのような問題意識をもって入学した大学院で、大野さんはいろいろな経験をし、研究に必要な力を身につけてきましたね。

大野 研究に取り組む過程で、先生方からアドバイスをいただいたり、他の院生の意見を聞いたりしながら、今ある制度・支援にはどのような効果があるのか、といったことなどを研究的な視点で考える力や、論文を批判的に読む力が身につけてきたように思います。賛川先生には、ゼミや個別指導の時間以外にも、普段から研究に関する些細な悩みや疑問点を相談しています。方向性について迷ったときでも、先生との対話を通じて思考を深められることが、研究を進める上で大きな支えになっています。

賛川 大学院は院生とのコミュニケーションがとくに重要であると考えており、些細な相談などのちょっとした対話の時間も大事にしています。そのなかで、私が研究指導で強調している力が身につけてきたと思えるようになるまで、大野さんは努力してきましたね。では、そんな大野さんの今後の目標を教えてください。

大野 今後は、まずはこれまで悩みながら進めてきた研究を形にしたいです。卒業後は、大学院で学んだことを生かして若者支援の現場で働きたいと考えています。答えがすぐに見つからないものに対して、その「わからなさ」に意味があると信じて問い続けていくことができる、研究的実践者を目指します。



社会福祉学研究所
(研究大学院)

賛川 信幸 教授

社会福祉学研究所
(研究大学院)

大野 菜由 さん

教員紹介



森 千佐子 研究科長 教授

前 後

【略歴】九州保健福祉大学大学院社会福祉学研究所博士後期課程単位取得退学後、博士(社会福祉学)を取得、筑波大学附属病院等で看護師として勤務した後、看護教員を経て、佐野短期大学(現佐野日本大学短期大学)で介護福祉士養成教育に携わり、2017年より現職。
【主な研究分野】高齢者・介護者支援、介護実践、多職種連携、介護福祉教育
【著書】『介護予防の健康科学－高齢者・障害者のライフスタイル研究－』(共著、不昧堂出版、2008)／『人間関係ハンドブック』(共著、福村出版、2017)／『介護教育方法の理論と実践』(共著、弘文堂、2019)／『新・社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習』(共著、弘文堂、2024)など



前期課程の方へ

疑問や関心のある事柄を深く掘り下げ、解明するための理論や方法など研究の基礎を修得し、事象を論理的に多角的視点でとらえることが重要です。社会福祉・介護福祉の実践につながる研究成果を期待しています。

後期課程の方へ

高齢者をめぐる課題を中心に、これまでの研究成果を発展させながら、社会福祉・介護福祉に関する創造的・独創的な研究への取り組みを支援します。研究成果が社会貢献につながることを期待しています。



内田 宏明 教授

前

【略歴】東洋大学大学院博士後期課程単位取得退学。養護老人ホーム相談員、障害者就労支援員、スクールソーシャルワーカー、長野大学実習助手、法政大学実習指導講師、飯田女子短期大学准教授を経て現職。
【主な研究分野】スクールソーシャルワーク、学校福祉、子どもの権利
【著書】『再構児童福祉－子どもたち自身のために』(共著、簡井書房、2014)／『まちいっばいの子どもの居場所』(共編著、子どもの風出版会、2019)／『入門スクールソーシャルワーク論』(編著書、ミネルヴァ書房、2022)など



前期課程の方へ

「子どもの権利」擁護を焦点として、スクールソーシャルワークの地域展開、学校福祉論の研究を進めている。また、社会福祉の原理論についても学びを深めたいと考えている。

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。

前 …博士前期課程 後 …博士後期課程

(2025年4月現在)



有村 大士 教授

前 後

【略歴】日本社会事業大学 博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。子ども家庭総合研究所子ども家庭福祉研究部主任研究員を経て、2023年に着任。**【主な研究分野】**子ども家庭福祉、児童相談所、子ども虐待に対する社会的対応、社会的養護、障害児虐待予防など**【著書】**『ファミリー・グループ・カンファレンス：子ども家庭ソーシャルワーク実践の新たなモデル』(共訳、有斐閣、2005)／『子ども虐待(新版)』(共著、有斐閣、2008)／『一時保護所の子どもの支援』(共著、明石書店、2009)／『障害児の虐待死問題：事例の分析と障害児支援・家族支援』(共著、福村出版、2024)／『子ども家庭福祉』(共編著、ミネルヴァ書房、2016)など



前期課程の方へ

ゼミにおける受講生、及び教員との対話を通して、考えを深める作業を大事にしたいと思います。研究テーマに向き合い、考える作業を進める中で、自分自身の「考える」意味や意義も変わってくると思います。こだわりと柔軟さは一見矛盾するようですが、共に大切なものです。

後期課程の方へ

自立した研究者として、考える時間と過程を大切にしてください。文献を整理し、論文の焦点を置く過程では、自分自身の持つ価値観や研究の意味に迷うことも多いことと思います。自分自身が対象の本質を捉えているのかを問い、研究の社会的意義を見失わずに研究を深めていただきたいです。



小原 真知子 教授

前 後

【略歴】1991年、日本女子大学大学院文学研究科社会福祉学博士前期課程修了(社会学修士)後、日本医科大学第二病院、医療ソーシャルワーカーを経て、2000年、久留米大学文学部社会福祉学科講師、准教授。2005年、日本女子大学大学院人間社会研究科博士後期課程修了(社会福祉学博士)。2007年、東海大学健康科学部、准教授、教授を経て、2015年より現職。**【主な研究分野】**ソーシャルワーク理論・援助技術開発、保健医療福祉領域、高齢者福祉領域、国際ソーシャルワーク領域
【著書】『統合的短期型ソーシャルワークーISTTの理論と実践』(監訳、金剛出版、2014)など



前期課程の方へ

社会福祉実践は理論の両輪で検討する必要があります。前期課程を通して、社会の動向を見据えた重要な研究テーマに取り組み、その成果を社会に還元してほしいと願っています。

後期課程の方へ

後期課程では、社会福祉を実学として客観的にエビデンスを提示し、研究テーマに沿って検証していくプロセスが必要です。各自のテーマを博士論文にする道は容易なことではありませんが、貴方の研究が社会に貢献できることを期待しています。



木村 容子 教授

前 後

【略歴】1993年、関西学院大学大学院社会学研究科博士前期課程修了(社会学修士)。1995年、(米国)コネチカット大学ソーシャルワーク大学院修士課程修了(Master of Social Work)。2010年、関西学院大学大学院人間福祉研究科博士後期課程修了(博士・人間福祉)。社会福祉法人愛和会・中筋児童館館長、京都光華女子大学准教授等を経て、現職。**【主な研究分野】**子育て支援、社会的養護、ソーシャルワーク実践理論・方法論**【著書】**『被虐待児の専門里親支援－M-D&Dにもとづく実践モデル開発－』(相川書房、2012)／『子ども家庭福祉<第3版>』(共編著、ミネルヴァ書房、2021)／『ソーシャルワーク論』(共編著、ミネルヴァ書房、2019)など



前期課程の方へ

自身の研究においてソーシャルワークのどのような価値と理論をもって事象を説明立てるのか、あるいは実践のあり方等を実証していくのか、社会に対するアカウンタビリティを果たしうる研究の基礎力を養いましょう。

後期課程の方へ

ソーシャルワークの価値や実践理論等理論的枠組みをもって、客観的にエビデンスを導く実践的なソーシャルワーク研究を志向していきます。そのためクリティカルな思考や研究方法を習得する個別指導やピアの良さを活かした授業・ゼミを行っています。



田村 真広 教授

前 後

【略歴】筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学、教育学修士。筑波大学教育学系、北海道教育大学釧路校を経て、2001年本学に着任。現在に至る。**【主な研究分野】**教育福祉論、福祉教育実践論、福祉科学習指導論、学校カリキュラムの歴史と理論
【著書】『福祉科指導法入門』(共編著、中央法規出版、2002)／『あっ!こんな教育もあるんだ』(共編著、評論、2006)／『高校福祉科卒業生のライフコース』(共編著、ミネルヴァ書房、2008)／『希望をつむぐ教育』(共編著、生活ジャーナル、2018)／『究める!福祉教育・ボランティア学習の課題』(共編著、大学図書出版、2024)など



前期課程の方へ

子どもの貧困と地域振興、高等学校の教育課程改革、教師教育に研究関心があります。教育福祉と福祉教育の関連を探究するべく、多角的な視野から現実を切り取り、学際的に探究する手法を重視しています。

後期課程の方へ

教育福祉と福祉教育の関連を、歴史的かつ哲学的に探究します。最新の知見を取り入れつつ独立した研究の成果としてまとめていきます。

教員紹介



鶴岡 浩樹 教授

前 後

【略歴】1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県鹿野町民病院内科、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年つるかめ診療所開設。2013年より現職。認知症サポーター。日本医師会認定産業医。
【主な研究分野】地域医療、在宅医療、EBM、介護ロボット、多職種連携
【著書】『介護・福祉リーダーのためのチームマネジメント』(共著、中央法規、2019)、『医学概論』(共編、ミネルヴァ書房、2021)、『スゴくわかるすぐ役立つケアマネ・介護職のための医学知識ガイド』(単著、中央法規、2023)



前期課程の方へ

地域医療に関わる研究は現場に焦点を当てます。疾病の他、患者と家族、それを支える地域や社会など研究対象は広範囲です。量的研究、質的研究、ミックス法など多角的なアプローチを駆使し現場の不思議に迫ります。

後期課程の方へ

前期課程で身につけた知識、技術、価値観を高められるよう医学研究の立場から助言します。研究課題を多角的な視点で見つめ、エビデンスに基づく論理的思考を磨き、現場のための研究者を育みたいと思います。



菱沼 幹男 教授

前 後

【略歴】1994年、本学社会福祉学部卒業。2001年、本学大学院博士前期課程修了。2010年、本学大学院博士後期課程修了(社会福祉学博士)。社会福祉協議会職員、高齢者デイサービスセンター生活相談員、大妻女子大学実習講師、文京学院大学助教を経て現職。社会福祉士・介護支援専門員。
【主な研究分野】地域福祉、高齢者福祉、コミュニティソーシャルワーク
【著書】『コミュニティソーシャルワーク』(単著、有斐閣、2024)、『コミュニティソーシャルワークの新たな展開』(共編著、中央法規、2019)、『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』(共編著、中央法規、2015)など



前期課程の方へ

コミュニティソーシャルワークは、個別支援と地域支援の統合的展開を目指すものであり、この視点を基盤として各自の研究テーマを掘り下げ、実践に資する研究力を養います。

後期課程の方へ

地域生活支援における今日の課題に対して、学際的な先行研究のレビューと実証的な調査を通して、日本の地域福祉実践と理論を前進させていく研究力と教育力を高めます。



壬生 尚美 特任教授

前 後

【略歴】関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究所博士後期課程修了、博士(臨床福祉学)を取得。特別養護老人ホームの介護職員等を経て、中部国際大学短期大学部、大妻女子大学にて介護福祉士養成教育に携わり2017年4月より現職。
【主な研究分野】高齢者福祉施設介護の歴史、介護福祉実践方法、介護福祉教育など
【著書】『戦後高齢社会基本文献集解説・解題』(共著、日本図書センター、2007)、『事例で学ぶ生活支援技術習得』(共編著、日総研、2008)、『特別養護老人ホームにおけるケアの実践課題』(単著、ドメス出版、2017)、『最新介護福祉士養成講座7生活支援技術II』(共編著、中央法規出版、2019)、『介護教育方法の理論と実践』(共著、弘文堂、2019)



前期課程の方へ

介護を取り巻く状況は厳しく様々な課題が顕在化しています。各自の問題意識を、講義・演習を通し価値あるものに高め、掘り下げ発展させることで、今後の介護の質を高める実践に資することを期待しています。

後期課程の方へ

特に高齢者介護福祉の直接支援に関連した実践研究を探究します。各自の研究課題を十分練り上げてください。研究のための研究ではなく、社会に貢献できる実践に役立つ研究成果を期待しています。



宇野 耕司 准教授

前

【略歴】児童養護施設等での実務を経験した後、2013年、本学大学院博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。目白大学准教授を経て、現職。
【主な研究分野】子ども虐待、子ども家庭福祉領域における援助・支援、子育て支援を含む社会的養育領域における実践と研究
【著書】『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』(中央法規出版共著)、『ワークブック はじめての子育てと子育て支援』(学術研究出版)



前期課程の方へ

子ども家庭福祉領域の実践課題の解決に関心があります。実践を観察・記述し、研究テーマを明確にします。そして、研究テーマに関する先行研究をレビューし、実践課題を研究課題として説明し、問いを立て、その答えを見つけるために実証的な方法を用いて研究に挑みます。



齋川 信幸 教授

前 後

【略歴】2008年、東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士(保健学)。NPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)研究員、本学非常勤講師を経て、現職。
【主な研究分野】精神保健福祉、福祉プログラム開発・改善と評価
【著書】『心理社会的介入プログラム実施・普及ガイドラインに基づく心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット』(分担著、NPO法人コンボ、2011)、『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法』(共編著、日本評論社、2019)など



前期課程の方へ

福祉課題の解決のために「なぜそうなのか」を根拠をもって他者と共有できる形で生み出し、発信する「研究」の習得を目指します。私の専門は精神保健福祉分野ですが、福祉分野横断的に福祉課題を扱います。

後期課程の方へ

博士前期課程の内容をさらに掘り下げます。海外の文献レビューも積極的に取り入れ、国際的な知見も踏まえて研究を進め、国際的にも発信できる研究者を目指して指導します。



村田 文世 教授

前 後

【略歴】1983年、東京女子大学文理学部史学科卒業。外資系企業勤務を経て、2007年、日本女子大学大学院人間社会研究科博士課程修了(社会福祉学博士、社会福祉士)。九州看護福祉大学専任講師、准教授を経て2013年に本学着任。現在に至る。
【主な研究分野】社会福祉政策(サービス供給論)、公私協働論、民間非営利組織論
【著書】『福祉多文化における障害当事者組織と“委託関係”』(ミネルヴァ書房、2009、第7回日本社会福祉学会奨励賞受賞)、『社会福祉への招待』(分担、放送大学教育振興会、2016)など



前期課程の方へ

福祉多文化に伴い多様な民間組織がサービス供給主体となるなか、NPOでは組織や事業活動の変容等の課題も顕在化しています。官から民への政策動向が福祉サービスに与える影響、従来の枠組みを超えた社会福祉法人やNPO法人等の福祉経営を研究領域としています。

後期課程の方へ

①研究課題に関する概念やキーワードの明確化、②先行研究の体系的整理、③理論枠組の構築、④研究方法の検討、⑤調査の実施、⑥論文執筆の過程を通して、理論と実践の矛盾、政策が実践に及ぼすコンフリクト等、社会福祉の本質に迫る社会福祉研究者の育成を目指します。



亀崎 美沙子 准教授

前

【略歴】神戸大学大学院人間発達環境学研究所博士後期課程人間発達専攻修了(教育学博士)。江東区東陽子ども家庭支援センター“みずべ”非常勤職員、東京家政大学家政学部児童学科助教、松山東雲短期大学保育科専任講師、十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学准教授を経て、2024年より本学社会福祉学部および大学院社会福祉学研究所准教授。
【主な研究分野】保育の専門性を基盤とした子育て支援、子育て支援における保育者の葛藤、保育者の専門職倫理
【著書】『子育て支援における保育者の葛藤と専門職倫理-「子どもの最善の利益」を保障するしくみの構築にむけて-』(単著、2023、明石書店)、『保育の専門性を生かした子育て支援-「子どもの最善の利益」をめざして-』(単著、2018、わかば社)など。



前期課程の方へ

保育者が行う乳幼児期の子ども・子育て支援や保育者の専門職倫理に焦点を当て、乳幼児教育・保育との関連から学びを深めます。



永嶋 昌樹 准教授

前

【略歴】筑波大学大学院教育研究科カウンセリング専攻カウンセリングコース修了。日本社会事業大学大学院社会福祉学研究所博士後期課程修了。聖徳大学専任講師を経て、2016年本学に着任。現在に至る。
【主な研究分野】高齢者福祉、世代間交流、農福連携、グリーンソーシャルワーク
【著書】『要介護認定調査必携ハンドブック』(編集、看護の科学新社、2023)、『介護教育方法の理論と実践』(共著、弘文堂、2019)、『アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック』(共著、みらい、2016)など



前期課程の方へ

人間の生活を「高齢者」「子ども」「障害者」等の年齢・属性や、法律ごとの区別で見られるのではなく、社会や環境との関係を踏まえて全人的・包括的に捉えることができるような指導を心掛けています。



佐々木 貴雄 准教授

前 後

【略歴】2006年一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。東京福祉大学専任講師・准教授を経て2023年より現職。
【主な研究分野】医療保険制度における保険者、高齢者を対象とした医療保障、社会の変化に対応した社会保障制度
【著書】『就労支援政策にみる福祉国家の変容:7カ国の分析による国際的動向の把握』(分担執筆、ミネルヴァ書房、2024)、『厚生(労働)白書』を読む:社会問題の変遷をどう捉えたか(分担執筆、ミネルヴァ書房、2018)、『世界はなぜ社会保障制度を創ったのか:主要9カ国の比較研究』(分担執筆、ミネルヴァ書房、2014)



前期課程の方へ

前期課程では、まず研究論文の書き方をしっかりと理解することが求められます。先人の研究との対話の中で自ら考え、さらに考えを突き詰めたうえで論文にまとめていく楽しさをぜひ知ってほしいと思います。

後期課程の方へ

後期課程では、博士論文の執筆だけでなく、投稿論文や学会などで自らの研究を発表することが求められます。本大学院での研究をもとにして、ぜひ積極的に様々な学会や研究会に参加することを心掛けてください。





児童相談所の人材育成から 設計コンセプトまで 具体的な事例を研究

三野輪 隆広さん

2021年3月 社会福祉学研究所 博士前期課程 修了
旭児童ホーム 児童家庭支援センターおおいけ 勤務

研究テーマ

児童相談所開設と自治体福祉行政の再編過程

現在は児童家庭支援センターで、子どもと家庭の多様な課題に向き合う支援を行っています。大学院では、東京都の区立児童相談所の開設にまつわる取り組みを研究テーマに取り上げました。児童相談所の設計において、地域の支援体制や文化がどのように反映されているのか、また実務経験者が少ない中で人材をどう育成していくのかなど、児童福祉行政の再編に伴う実践的な課題に焦点を当てました。こうした研究で得た知見は、現在の仕事にも直結しており、児童相談所との連携時には、どう動けばより効果的な支援につながるかを考える際の大きな指針となっています。今後も、子どもの声に丁寧に耳を傾け、家庭のwell-beingに寄り添えるよう、実践力を高めていきたいです。

学びを深めるきっかけ } 卒業研究での悔しさ

大学の卒業研究で児童相談所のエキスパートにインタビューをした際、知識不足から理解できない点が多く悔しい思いをしました。その経験が原動力となり、大学院では文献や行政資料を徹底的に読み込むことで、知識の土台を築きました。今も現場での実践を支える基盤となっています。



地域福祉の現場課題に 即したCSWの実践と 支援体制を探る

渡久地 美智留さん

2025年3月 社会福祉学研究所 博士前期課程 修了
高崎健康福祉大学 健康福祉学部 社会福祉学科 勤務

研究テーマ

特例貸付を通じたCSWの支援体制と今後のあり方の検討

社会福祉協議会に勤務していた当時、福祉現場への間接支援を行う中で、「現場と乖離していないか」「もっと的確な支援ができるのでは」と悩むことが多く、実践と理論の双方を深めたいと大学院へ進学。コロナ禍で実施された特例貸付を切り口に、生活困窮世帯への支援のあり方を、コミュニティソーシャルワーク(CSW)理論から検討しました。全国の社会福祉協議会への量的調査と、個別の社協への質的調査を組み合わせ、支援に必要な機能や体制を明らかにしました。とりわけ、社会的孤立に対するアウトリーチの重要性や、個別支援と地域支援をつなぐ仕組みづくりの必要性を示唆。研究を通じて、目的意識を持った実践の重要性を再認識し、今では根拠に基づいた支援を意識するようになりました。

学びを深めるきっかけ } 実践と研究の両立への思い

間接支援の立場で働く中、「もっと現場を理解したい」という思いが募り、実践を通じて研究を深めたいと考えるようになりました。大学院パンフレットにあった「実践的研究者・研究的実践家」という言葉が、進学への大きな後押しになりました。



ソーシャルワーカーの 社会的承認を広めるために 教育と研究で尽力したい

佐藤 惟さん

2018年3月 社会福祉学研究所 満期退学
2021年学位授与
淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 勤務

研究テーマ

ひとり暮らし高齢者の『意思決定の準備』に関する研究

介護現場での経験を経て、社会福祉を学び直したいという思いから進学しました。現場で見た高齢者の姿から「人生の最終段階をどう支えるか」に関心を持ち、博士論文ではひとり暮らし高齢者の「意思決定の準備」に焦点を当てました。介護支援専門員とのインタビューを通じ、医療・ケアにとどまらず、葬儀や相続なども含めた“人生の会議”の重要性を実感しました。現在は大学で高齢者福祉を教えながら、社会福祉士の養成にも関わっています。研究・教育と現場経験を生かし、学生が現実社会に貢献できるような指導を心がけています。仕事と学業の両立、博士課程の満期退学など、決して順風満帆ではありませんでしたが、多くの方の支えと制度に助けられ、今の自分があります。今後は実習の質の向上や資格制度の在り方にも関わりながら、現場と教育の橋渡しをしていきたいです。

学びを深めるきっかけ } 多様な出会いが促した学びの姿勢

大学院進学後、年齢も経歴も多種多様な同期や先輩・後輩との出会いはとても刺激的で、学びを深める上で大きなモチベーションになりました。また、経験豊富な先生方から丁寧なご指導をいただいたことが、知識の面でも研究に向き合う姿勢の面でも、大きな財産となっています。



住民主体の支援に着目し 地域福祉の実践を 見つめ直す

叶 寧さん

2024年3月 社会福祉学研究所 博士後期課程 修了
身延山大学 仏教学部 仏教学科 福祉学専攻 勤務

研究テーマ

地域包括ケアシステムの構築において、地域住民および インフォーマル組織の参画が果たす役割に関する研究

日本社会の高齢化に強い関心を持ち、福祉の学びを深めるために来日しました。博士論文では、地域包括ケアにおける住民主体の取り組みに着目し、特に保健補導員と専門職との連携の実態や課題を分析。研究を進める中で、福祉は制度やサービスだけでなく、地域に根ざした人と人とのつながりが重要であることを再認識しました。博士後期課程在籍中に、社会福祉士資格を取得し、現在は大学教員として高齢者福祉や地域福祉を担当。仕事と学業の両立は容易ではなく、8年をかけて博士号を取得しましたが、研究への情熱と周囲の支えがあったからこそ乗り越えられました。大学院で培った研究スキルや視野の広がり、教育の現場でも大きな力となっています。今後は、日中の社会福祉の比較研究や人材育成に力を注ぎたいです。

学びを深めるきっかけ } 日本の先進的福祉に魅かれて来日

中国で日本語と経済学を学ぶなか、日本が直面する少子高齢化社会に強く関心を持ちました。福祉を基礎から学びたいという思いから日本社会事業大学大学院へ、指導教員の丁寧な支援や、研究に集中できる環境が整っていたことが、研究者・教育者としての現在のキャリアへとつながっています。

修士論文題目(博士前期課程)

2024年度

○家庭環境に課題のある中高生年齢の子どもへの支援に関する研究
—児童館職員の18歳以降を見据えた関わりに関する分析—

○福祉型障害児入所施設における児童から
職員への暴力の実態および対応のあり方について

○コロナ特例貸付利用世帯への支援における
コミュニティソーシャルワーク機能の分析
—社会福祉協議会における生活困窮世帯への支援に焦点を当てて—

○地域分散型小規模児童養護施設におけるケア支援に関する研究

○ユースセンターにおける利用者の居場所形成過程に関する研究
—ロビーワークの役割に着目して—

2023年度

○児童養護施設のケアワーカーのアセスメントの視点・行動の研究
—家庭的養育に対応する生活支援からの自立支援計画に焦点を当てて—

○児童養護施設職員の勤務継続を促進する職場環境づくりの実践に関する研究
—TOKYO働きやすい福祉の職場宣言に視点を当てて—

○民生委員のソーシャル・キャピタルに関する研究
—委員活動継続に向けて—

○障害のある子どもをもつ保護者への支援に関する研究
—エンパワメントの視点に立った支援に焦点を当てて—

2022年度

○精神疾患の親をもつ子どもに対する
支援のプログラム理論に対する予備的検討

博士論文題目(博士後期課程)

緑字:学位 黒字:題目

2024年度

博甲第88号

○特別養護老人ホームにおける機能訓練指導員の他職種連携の取り組み
—利用者の生活機能に着目した機能訓練体制の構築に向けて—

2023年度

博甲第85号

○育児と介護のダブルケア期に働く女性への仮説的支援モデルに関する研究
—ワーク・ファミリー・コンフリクトとストレングスの視点から—

博甲第86号

○児童養護施設における共感疲労の精緻化に関する研究
—インタビュー調査を通して—

博甲第87号

○保健補導員の高齢者福祉における活動継続に関する研究
—長野県須坂市の事例をもとにして—

2022年度

博甲第84号

○「住み慣れた我が家で暮らし続ける」ための「出張暮らしの保健室」に関する研究
—訪問看護師と福祉職の協働による効果的支援モデルの提案—

2021年度

博甲第80号

○ひとり暮らし高齢者の「意思決定の準備」に関する研究
—福祉専門職によるアドバンス・ケア・プランニングの発展—

博甲第81号

○「看取りの社会化」を進展させる「高齢者看取り支援」に関する研究
—市町村における先進的事業の分析を通して—

博甲第82号

○がん相談支援センター活用促進要因の探索的研究
—施設の取り組み状況に着目して—

博甲第83号

○The Development of an Effective Program for Promoting the Model of Active Aging in Thailand Utilizing a Care Prevention Program from Japan

学長メッセージ

実践に基づく研究と研究に基づく実践を行う 社会福祉のリーダーを養成する大学院

日本社会事業大学の誇りは、日本で最も古い社会福祉の専門大学として、国から「指導的な社会福祉人材の養成」を委託された大学としての使命をもって、日本の社会福祉をリードした人材を多数養成してきたことにあります。

本学は、こうした使命を果たすために、学部・大学院・通信教育科・附属子ども学園を設けて、総合的な社会福祉の大学として先進的な教育研究体制を整えています。

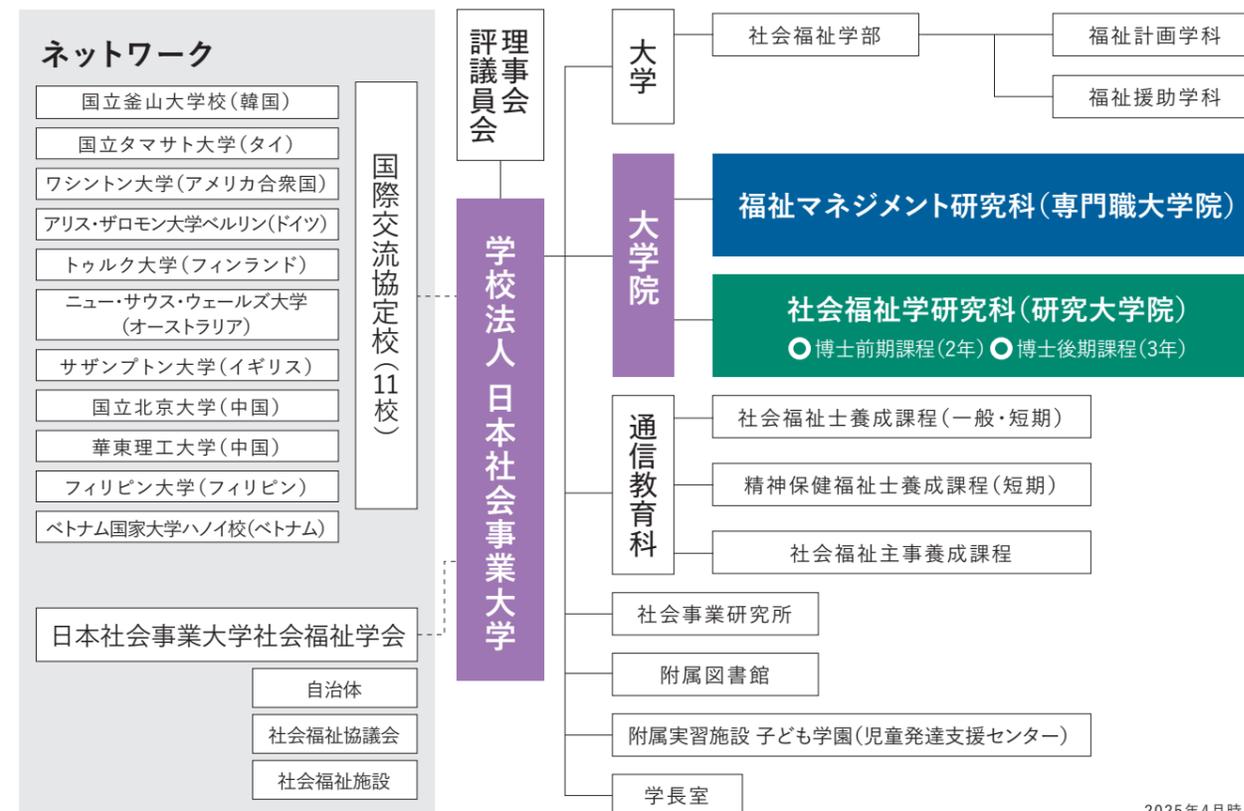
本学大学院には、福祉社会の創造と福祉文化の発展に貢献するために、福祉マネジメント研究科(専門職大学院)と社会福祉学研究科(研究大学院)が設置されています。福祉マネジメント研究科は実践研究を通じ福祉現場で指導的な役割を担うソーシャルワーク専門職を養成することをめざし、社会福祉学研究科は科学的な研究を通じ日本の社会福祉をより良いものに変革する福祉専門家を養成することをめざしています。

皆様には、本学大学院に進学することで、福祉の学部教育だけでは乗り越えられない、また福祉の現場実践だけでは乗り越えられない、福祉分野の諸課題を見据え、自ら研究課題を設定し、先行研究を踏まえ、的確な研究方法に基づき、新たな知見や解決の糸口を探り出し、日本の福祉現場と社会福祉をより良いものに変革くださるよう、心より期待しております。



日本社会事業大学
学長 横山 彰

組織図



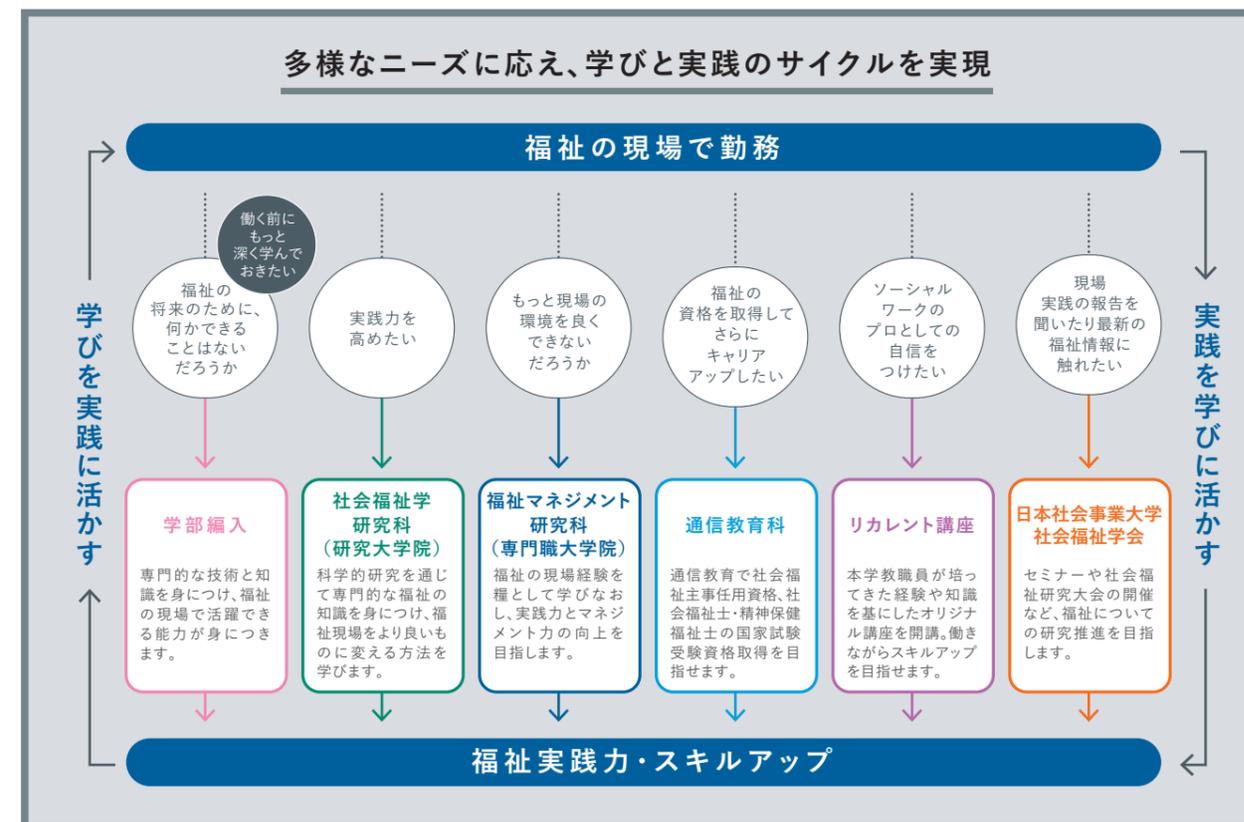
2025年4月時点

沿革

- 1908 (明治41)年10月
中央慈善協会設立(本学の淵源)
- 1921 (大正10)年3月
社会事業協会設立(中央慈善協会を改称)
- 1924 (大正13)年3月
財団法人中央社会事業協会設立(社会事業協会を改称)
- 1928 (昭和3)年4月
社会事業研究生制度発足
- 1946 (昭和21)年11月9日
日本社会事業学校創立
東京都牛込区原町に開校
- 1947 (昭和22)年4月
財団法人日本社会事業協会設立(財団法人中央社会事業協会を改組)
日本社会事業専門学校開校

- 1948 (昭和23)年1月
東京都渋谷区原宿に移転
- 1950 (昭和25)年4月
日本社会事業短期大学開学
- 1951 (昭和26)年3月
学校法人日本社会事業学校設立(財団法人日本社会事業協会を改組)
- 1958 (昭和33)年4月
日本社会事業大学開学
- 1962 (昭和37)年4月
学校法人日本社会事業大学設立(学校法人日本社会事業学校を改称)
- 1989 (平成元)年4月
東京都清瀬市に校舎移転
大学院社会福祉学研究科修士課程開設
- 1994 (平成6)年4月
大学院社会福祉学研究科博士後期課程設置
- 2004 (平成16)年4月
大学院福祉マネジメント研究科
専門職学位課程開設

- 2009 (平成21)年4月
大学院福祉マネジメント研究科に
長期履修制度(2年履修)を導入
- 2013 (平成25)年4月
附属実習施設「子ども学園」は
児童発達支援センターに改変
- 2016 (平成28)年10月
社会事業研究所に国際・アジア
福祉研究教育センター設置
- 2016 (平成28)年11月
日本社会事業大学 創立70周年
- 2017 (平成29)年4月
ボランティアセンター開設
- 2018 (平成30)年4月
学長室設置
- 2024 (令和6)年4月
大学院福祉マネジメント研究科
創立20周年
- 2026 (令和8)年11月
日本社会事業大学 創立80周年



学費

1年 福祉マネジメント研究科 (専門職大学院)

費目		1年次
学費等	入学金	282,000
	授業料(全納)	535,800
	教育充実費	300,000
	諸会費	3,000
合計(全納)		1,120,800
授業料(分納)	前期分	852,900
	後期分	267,900

- 入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
- 授業料はスライド制を導入しており、在学中に授業料の改正があった場合には、授業料の額を変更することがあります。
- 授業料は前期と後期で分納できます。
- 本学学部を卒業した者、本大学院博士前期課程を修了した者が本大学院に入学する場合は入学金を徴収しません。
- 本学(学部・大学院)卒業見込者の学内社会福祉学会費について、標準履修者は1,500円、長期履修者は3,000円です。

2年 福祉マネジメント研究科 (専門職大学院)

費目		1年次	2年次	合計
学費等	入学金	282,000	—	282,000
	授業料(全納)	267,900	267,900	535,800
	教育充実費	300,000	200,000	500,000
	諸会費	4,500	—	4,500
合計(全納)		854,400	467,900	1,322,300
授業料(分納)	前期分	720,450	333,950	1,322,300
	後期分	133,950	133,950	

博士前期課程 (修士課程) 社会福祉学 研究科 (研究大学院)

費目		1年次	2年次	備考
学費等	入学金	282,000	—	入学時のみ
	授業料(全納)	535,800	535,800	
	教育充実費	200,000	180,000	
	諸会費	4,500	—	入学時のみ
合計(全納)		1,022,300	715,800	
授業料(分納)	前期分	754,400	447,900	
	後期分	267,900	267,900	

- 入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
- 授業料は前期と後期で分納できます。
- 本学学部の卒業生または本大学院専門職学位課程を修了した者が本大学院博士前期課程へ入学した場合は、入学金を徴収しません。
- 本学(学部)卒業者の学内社会福祉学会費は4,500円、卒業見込者は3,000円です。

博士後期課程 (博士課程) 社会福祉学 研究科 (研究大学院)

費目		1年次	2年次	3年次	備考
学費等	入学金	282,000	—	—	入学時のみ
	授業料(全納)	535,800	535,800	535,800	
	教育充実費	200,000	180,000	180,000	
	諸会費	6,000	—	—	入学時のみ
合計(全納)		1,023,800	715,800	715,800	
授業料(分納)	前期分	755,900	447,900	447,900	
	後期分	267,900	267,900	267,900	

- 入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
- 本学学部の卒業生または本大学院博士前期課程または専門職学位課程を修了した者が本大学院博士後期課程へ入学した場合は、入学金を徴収しません。
- 本大学院博士前期課程または専門職学位課程より引き続き入学した者の教育充実費については入学初年度に180,000円を徴収します。
- 授業料は前期と後期で分納できます。
- 本学(博士前期課程・専門職学位課程)卒業者の学内社会福祉学会費は6,000円、卒業見込者の入学時の学内社会福祉学会費は4,500円となります。

授業料等の延納制度

対象者	条件	種別
福祉マネジメント研究科(専門職大学院)・社会福祉学 研究科(研究大学院)の入学生	特別な事情により授業料及び諸納金*の納付が困難である者	延納(授業料・諸納金*)

*教育充実費、諸会費

奨学金

名称	条件	種別	金額	返還	募集	備考
大学院学内給費生制度	学業成績・人物ともに優秀で経済的事由により授業料の納付が困難な学生	給付	授業料年額と教育充実費を合計した額の内、全額、半額、または25%	返還義務なし	在学生前年度1月 新入生7月	単年度のみ
障害学生奨学金給付制度	身体等の障がい起因して修学上特別な経済的支出を必要とする学生	給付	当該学生の年間教育充実費相当額を上限とする	返還義務なし	1月 ※入学後に申請方法等の詳細を説明します。	単年度のみ。 消耗品など主に物に対する給付。給付は会議にて決定。
独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金 第一種	教育・研究者、高度の専門性を要する職業人の養成を目的として貸与するもので、人物・学業ともに特に優れた健康であって経済的理由により修学に困難があると認められる者	貸与	(月額) <博士前期、専門職> 50,000円、88,000円から選択 <博士後期> 80,000円、122,000円から選択	卒業後無利子で返還	4月	貸与期間は最短在学年数 ※特に優れた業績による返還免除もあります(第一種)。
独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金 第二種		(月額) 50,000円、80,000円、 100,000円、130,000円、 150,000円から選択	卒業後有利子(利率上限3.0%)で返還			

●その他の奨学金

地方公共団体、民間団体・企業などでは大学院生を対象にした奨学金制度・研究助成金制度などを行っています。

個人的に調べた奨学金制度で申し込みをしたいものがありましたら、学生支援課まで相談してください。

また、留学生を対象とした奨学金は、日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費、公益財団法人平和中島財団などの受給実績があります。

これらの奨学金制度の募集時期は、おおむね4月～5月です。

詳細については、各自出身自治体などの関係諸機関、または民間団体・企業などに問い合わせてください。

※障がい学生に対する学習環境支援等経費(主に情報保障など人的な支援の経費)の支給制度(当該年度の5月申請)もあります。支給限度額は毎年度設定。入学後に申請方法等の詳細を説明。支給は会議にて決定。

福祉マネジメント研究科(専門職大学院) 対象

専門実践教育訓練給付制度

申請できる方	本学福祉マネジメント研究科標準修業年限1年で修了する学生で、受講開始日現在で雇用保険の被保険者であった期間が3年以上(初めての方は当分の間2年以上)等条件を満たした方
給付額	(a)訓練費用の50%(年間40万円上限) (b)受講終了日の翌日から起算して1年以内に一般被保険者として雇用されている場合訓練費用の20%を追加給付 (c)上記に加え、講座修了後の賃金が開始前と比較し、5%以上上昇した場合 10%を追加給付 ※(a)(b)(c)合計80%(年額64万円上限) ※専門実践教育訓練給付制度は、受講開始(入学)原則2週間前までに必ず受講申請を終える必要があります。

教育訓練給付制度とは、自ら費用を負担して厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合、支払った経費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。

※申請手続き、支給条件等の詳細につきましては、ハローワークまでお問い合わせください。

進路・就職(継続勤務を含む)

福祉マネジメント研究科(専門職大学院)	社会福祉学 研究科(研究大学院) 博士前期課程	社会福祉学 研究科(研究大学院) 博士後期課程
---------------------	-------------------------	-------------------------

福祉マネジメント研究科(専門職大学院)生の多くは、仕事と学びを両立させながら、研究に励んでおり、修了後も同一職場で勤務を継続しています。

転職・就職を希望する場合は、学生支援課と担当教員でサポートします。

公益財団法人児童育成協会/高崎健康福祉大学

日本社会事業大学大学院/国立障害者リハビリテーションセンター

特定非営利法人 手をつなご

(福)白秋会

入試概要

福祉マネジメント研究科(専門職大学院)

◆ 2026年度入試概要

入試区分	出願資格	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日	
有資格者入学試験	大学卒業相当者で、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保健師・看護師・保育士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師のいずれかの国家資格取得後、社会福祉関連領域の職場において3年以上の実務経験を有する者	50名 (修業年限1年 ただし、長期履 修生は2年)	小論文 面接審査 書類審査	第I期 11/4(火)～11/17(月)	第I期 11/30(日)	第I期 12/10(水)12:00	
一般入学試験	大学卒業相当者で、3年以上の社会人経験を有する者		小論文 筆記試験(語句説明) 面接審査 書類審査	第II期 12/15(月)～1/5(月)	第II期 1/25(日)	第II期 1/30(金)12:00	
推薦入学試験	推薦指定法人試験		大学卒業相当者で、指定する法人の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該法人から推薦が得られる者で、復職が保証されている者	小論文 面接審査 書類審査	第III期 2/2(月)～2/13(金)	第III期 2/21(土)	第III期 2/25(水)12:00
	推薦地方公共団体試験		大学卒業相当者で地方公共団体の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該自治体から推薦が得られる者で、復職が保証されている者	小論文 面接審査 書類審査	第IV期 2/16(月)～2/27(金)	第IV期 3/7(土)	第IV期 3/7(土)17:00

※第IV期については早期に募集人員に達した場合、実施しないことがあります。 ※本学通信教育科を修了し、修了証書の写し(または、修了証明書)を提出した者は、入学検定料が減額されます。
※詳細は「2026年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2025年度入試結果

入試区分	志願者	合格者
有資格者入学試験	28	28
一般入学試験	3	3
指定法人推薦入学試験	0	0
地方公共団体推薦入学試験	0	0
計	31	31

社会福祉学研究科(研究大学院)【博士前期課程(修士課程)】

◆ 2026年度入試概要

入試区分	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
一般入学	社会福祉学専攻 15名 (修業年限2年)	社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・英語・口述試験	前期第I期 9/8(月)～9/19(金)	前期第I期 10/4(土)	前期第I期 10/15(水)12:00
リカレント入学及び福祉関係職経験者入学		社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・口述試験	前期第II期 12/22(月)～1/9(金)	前期第II期 2/12(木)	前期第II期 2/25(水)12:00
学内推薦入学及び留学生入学		小論文・口述試験	Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること(それぞれ9/19、1/9の消印有効)		

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試広報課にご確認ください。
※詳細は「2026年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2025年度入試結果

入試区分	志願者	合格者
一般入学	5	4
リカレント入学	0	0
福祉関係職経験者入学	1	1
留学生入学	3	2
学内推薦入学	2	2
計	11	9

社会福祉学研究科(研究大学院)【博士後期課程(博士課程)】

◆ 2026年度入試概要

入試区分	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
一般入学	社会福祉学専攻 5名 (修業年限3年)	英語・小論文・口頭試問	12/22(月)～1/9(金)	2/13(金)	2/25(水)12:00
学内推薦入学		小論文・口頭試問	Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること(1/10の消印有効)		

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試広報課にご確認ください。
※詳細は「2026年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2025年度入試結果

入試区分	志願者	合格者
一般入学	2	2
学内推薦入学	2	2
計	4	4

説明会開催日程

大学院案内だけでは伝えきれない両研究科の魅力をお伝えします。詳細はホームページで確認の上、ご参加ください。

福祉マネジメント研究科(専門職大学院) 開催日程

日程	開催時間	内容	開催方法	会場
7月19日(土)	10:30～12:00	説明会・個別相談	オンライン	-
8月29日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
9月27日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	-
	11:45～13:30	説明会・個別相談		
10月31日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
11月28日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
12月13日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	-
	11:45～13:30	説明会・個別相談		
1月10日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	-
	11:45～13:30	説明会・個別相談		
1月16日(金)	19:00～20:00	授業内覧	対面	文京キャンパス
2月7日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	-
	11:45～13:30	説明会・個別相談		

※開催方法がハイブリッドの時は、対面かオンラインを選択できます。

社会福祉学研究科(研究大学院) 開催日程

日程	開催時間	内容	開催方法	会場
7月6日(日)	12:30～15:00	説明会・個別相談	オンライン	-
9月7日(日)	12:30～15:00			
10月25日(土)	12:30～15:00			
11月8日(土)	12:30～15:00			
12月13日(土)	12:30～15:00			

最新情報を
SNSでお届け



LINE X Facebook

説明会や入試日程などの入試情報を SNSで発信中!

参加方法

本学Webサイトから
お申し込みください。

日程・内容は変更になる場合がありますので、最新情報は本学Webサイトにてご確認ください。

URL <https://jcs.w.ac.jp/>

説明会の参加には
予約が必要です。



予約はこちらから▶

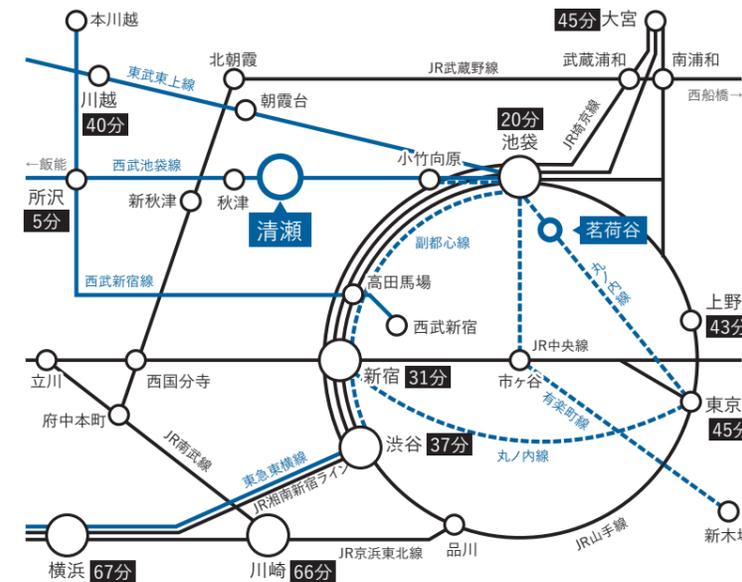
お問い合わせ

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30 入試広報課
TEL.042-496-3080 FAX.042-496-3081

Access 都心へも快適アクセス 緑豊かな街、清瀬

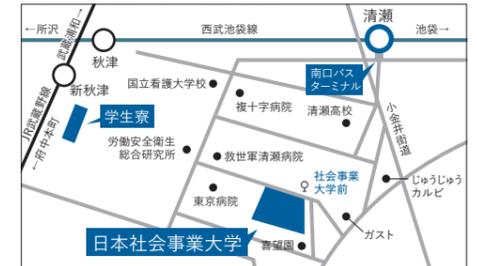


※下記の時間は、清瀬駅までの所要時間です。
※所要時間は目安です。乗り継ぎ時間・交通状況により変化する場合があります。



● 清瀬キャンパス(大学・大学院)

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30



西武池袋線「清瀬」駅下車。南口バスターミナル2番乗り場より、西武バスに乗り「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ。
・下里団地行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ
・花小金井駅行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ
・流山営業所行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ

● 文京キャンパス(サテライトキャンパス)

〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-12



東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅下車、徒歩5分。駅前より春日通りに出て、後楽園方面へ。ファミリーマート手を左折し、1つ目の信号を右へ。

 日本社会事業大学大学院

<https://www.jcsw.ac.jp/>

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

代 表 / TEL.042-496-3000 FAX.042-496-3001

入試広報課 / TEL.042-496-3080 FAX.042-496-3081